

県内遺跡発掘調査報告書IV

平成26年度県内遺跡試掘・確認調査

2015

新潟県教育委員会

県内遺跡発掘調査報告書IV

平成26年度県内遺跡試掘・確認調査

2 0 1 5

新潟県教育委員会

序

新潟県教育委員会では、平成25年度から国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査を直営の体制で行っています。これに伴い、調査成果は「新潟県埋蔵文化財調査報告書」の形で公表しており、本書は、第2冊目となります。

平成26年度の成果としては、一般国道8号柏崎バイパス茨目地区で、平成24年度に新発見した丘江遺跡の一部と考えられる中世の遺構・遺物を発見し、遺跡の範囲が74,437m²となることが確定しました。丘江遺跡は本年度すでに10,000m²を本発掘調査しており、13世紀から16世紀を主体とする集落と水田を発見しています。今後継続する本発掘調査により、さらに集落の様相が明らかになるものと期待されます。

また、本年度から国土交通省が新直轄道路として建設する、一般国道7号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）の試掘・確認調査も始まりました。村上市朝日から山形県鶴岡市まで延伸する予定で、平成27年度以降も継続して試掘・確認調査を行います。

本書が県内の埋蔵文化財保護行政の基礎資料となり、地域の歴史に興味を持つ多くの方にも活用されることを願っています。

最後になりますが、調査に際して多大な御協力と御援助を賜りました地元市町村教育委員会、近隣住民各位、国土交通省北陸地方整備局及び各国道事務所、東日本高速道路株式会社新潟支社長岡管理事務所に対し、厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

新潟県教育委員会

教育長 高井盛雄

例　　言

- 1 本報告書は、新潟県教育委員会（以下、「県教委」とする）が平成26年4月から平成27年2月に実施した埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査、詳細分布調査）の記録である。
- 2 本事業は、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、県教委が主体となって実施した。
- 3 出土遺物の注記は、調査年度（2014年）と略号を用い、トレンチ番号・層位等を記載した。丘江遺跡は「14オカエシクツ」、向野遺跡は「14ムカイ」、千古作遺跡は「14チゴ」、坂口新田遺跡は「14サカ」とした。
- 4 出土品及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が保管・管理している。
- 5 本事業に係る重機・作業員等の調査支援業務は、株式会社吉田建設に委託した。
- 6 引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 7 本書の執筆は佐藤友子が行った。位置図は佐藤、土層柱状図・トレンチ位置図・遺構平面図の作成は加藤元康が行った（いずれも所属は新潟県教育庁文化行政課）。

目 次

第1章 事業の概要

1 調査に至る経緯と体制	1
2 調査の概要	1

第2章 試掘・確認調査の結果

1 一般国道7号勝木地区事故対策関係（村上市勝木地区試掘調査）	3
2 一般国道7号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）関係 （村上市檜原・板屋越地区試掘調査）	4
3 一般国道7号新潟港東港地区事故対策関係 （聖籠町大夫興野地区試掘調査）	6
4 一般国道7号栗ノ木道路・紫竹山道路関係 （新潟市中央区西馬越～鐘～紫竹山三丁目間試掘調査）	9
5 一般国道49号阿賀野バイパス関係 （阿賀野市堀越地区・向野遺跡確認調査）	12
6 一般国道116号吉田下中野地区事故対策関係 （燕市吉田西太田・吉田下中野地区試掘調査）	16
7 一般国道8号柏崎バイパス関係 （柏崎市茨目地区・丘江遺跡試掘・確認調査）	17
8 一般国道17号和南津改良関係（長岡市和南津地区試掘調査）	20
9 一般国道17号浦佐バイパス関係（魚沼市大浦地区試掘調査）	22
10 一般国道17号石打自転車歩行者道整備関係 （南魚沼市下一日市・君沢地区試掘調査）	24
11 一般国道18号妙高大橋架替関係 （妙高市坂口新田遺跡・小二俣古戦場試掘・確認調査）	26
12 北陸自動車道長岡北スマートインターチェンジ関係 （長岡市大荒戸・上野地区試掘調査）	31

第3章 立会調査の結果

1 一般国道8号柏崎バイパス関係 （柏崎市剣野地区・千古作遺跡立会調査）	34
---	----

＜引用・参考文献＞	36
-----------	----

第1章 事業の概要

1 調査に至る経緯と体制

新潟県教育委員会（以下、県教委）では、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、主に国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査、詳細分布調査）を行っている。平成24年度までは財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団に委託して調査を行ってきたが、平成25年度からは県教委が直営で行っている。調査に係る体制は以下のとおりである。

総 括 斎藤 靖則（新潟県教育庁文化行政課長）
管 理 松本美奈子（新潟県教育庁文化行政課長補佐）
調査指導 澤田 敦（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）
調査担当 佐藤 友子（新潟県教育庁文化行政課専門調査員）
調査員 加藤 元康（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）

2 調査の概要

平成26年4月から平成27年2月までに行った調査は、第1表・第2表、調査か所は第1図のとおりである。ここでは、試掘・確認調査、立会調査の主な成果について述べる。

一般国道7号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）では、本年度から本格的な試掘・確認調査を開始した。今後数年をかけて試掘・確認調査を行っていくことになる。

一般国道49号阿賀野バイパス・向野遺跡では、今回の確認調査で遺跡の詳細な時代が判明し、幅1.60～2.60m、長さ37.5mの集落の区画溝あるいは水路と考えられる溝を検出した。

一般国道8号柏崎バイパス茨目地区では、平成24年度に新発見した丘江遺跡の範囲が拡大することを確認した。丘江遺跡は、本年度本発掘調査が行われ、13世紀から16世紀を中心とする集落であることが明らかになっている。

一般国道8号柏崎バイパス・千古作遺跡の立会調査を行った。平成23年度の本発掘調査で検出されていた溝の延長と溝に続く落ちこみを検出した。溝からは遺物が出土した。

事業者名	事業名	所在地・地区名	調査名	調査期間
国土交通省	新潟国道 一般国道7号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）	村上市 STA-695・736付近	分布	7月24・25日
	長岡国道 一般国道8号柏崎バイパス	柏崎市剣野町千古作遺跡	立会	8月25日
	一般国道8号竹鼻線形改良	上越市柿崎区竹鼻	分布	2月12日
	一般国道8号九戸浜潟町事故対策	上越市大潟区潟町	分布	2月12日
	一般国道8号下小船津交差点改良	上越市大潟区下小船津浜	分布	2月12日
	一般国道8号市振落石対策	糸魚川市市振	分布	2月12日

第1表 分布・立会調査一覧



第1図 試掘・確認調査位置図（番号は第2表「地図番号と一致」）

事業者名	事業名	地図番号	所在地・地区名	調査期間	調査率			調査結果			
					当初	実績	調査	本調査 必要面積	時代	透跡 名等	調査 面数
河川越	一般国道7号勝木地区事故対策	1	村上市勝木	12月8日	517	517	7				
	実施：1件1か所				小計	517	517	7			
国土交通省	一般国道7号朝日温泉道路（日本海沿岸東北自動車道）	2	村上市猪原・板堀越	9月10日～12日、9月16日～17日	9,000	9,000	344				
	一般国道7号新潟港東港地区事故対策	3	聖籠町大太夫岬	8月6日、9月18日	3,500	3,500	90				
	一般国道7号紫竹山道路	4	新潟市中央区紫竹山三丁目地先	8月5日、10月24、12月9日	1,110	806	25				
	一般国道7号果ノ木道路	5	新潟市中央区西馬越～綾三丁目周辺	8月4日、10月24日、12月9日	1,820	2,206	81				
	一般国道49号阿賀野バイパス	6	阿賀野市坂越	10月9～10、15～16日	2,190	2,190	235 不要		◆向野	1	
	一般国道116号吉田下中野地区事故対策	7	燕市西太田・吉田下中野地先	8月8日	1,069	1,069	47				
	実施：6件6か所				小計	18,689	18,771	822			
長岡鐵道	一般国道8号柏崎バイパス	8	柏崎市茨目	7月28～29日	6,000	6,000	113 6,000	中世 ◆丘江	1		
	一般国道17号和南津改良	9	長岡市和南津	10月7～8日	20,037	3,903	153				
	一般国道17号蒲佐バイパス	10	魚沼市大浦	6月30日～7月1日	8,251	3,323	53				
	一般国道17号石打自転車歩行者道その2整備	11	南魚沼市下一日市・君沢	6月26～27日	1,973	1,973	50				
	実施：4件4か所				小計	36,261	15,199	369			
河高田	一般国道18号妙高市坂口新田	12	妙高市坂口新田	10月27～31日	6,978	6,502	329 不要	平安 ◆坂口新田			
	妙高大橋架替	13	妙高市二俣	11月4～7日、11月10～11日	12,118	12,118	533 不要	中世 ◆小二俣古戦場			
	実施：1件2か所				小計	19,096	18,620	862			
長岡市管理事務所	北陸自動車道長岡北スマートインターチェンジ	14	長岡市大荒戸・上野	11月17～21日、11月25～28日、12月1～4日	22,288	20,842	872				
	実施：1件1か所				小計	22,288	20,842	872			
	実施：13件14か所				合計	96,851	73,949	2,932			

第2表 試掘・確認調査一覧

※「当初」は事業者からの要望対象面積、「実績」は未買収地等を除く実質対象面積、「調査」はトレンチ面積を示す。平成26年12月までに行った実績である。

第2章 試掘・確認調査の結果

1 一般国道7号勝木地区事故対策関係

がつぎ 村上市勝木地区試掘調査

(1) 立地と調査の概要

勝木川右岸の氾濫原で、同川の旧流路に位置すると見られる。標高は約7.9mである。現況は駐車場であるが、以前は水田であった。

調査対象範囲は幅が狭く北側は支障物件が多いことから、比較的広い南側に2か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

(2) 層序

I層 盛土である。駐車場の碎石層である。

I'層 盛土である。駐車場に整備するときのもので真砂土である。

II層 灰褐色シルトである。旧水田耕作土である。

III層 青灰砂利層である。旧水田床土である。

IV層 青灰シルト層である。河川氾濫原の堆積物である。

V層 細砂利層である。河川氾濫原の堆積物である。

(3) 遺構・遺物

なし。

(4) 調査結果と取扱い

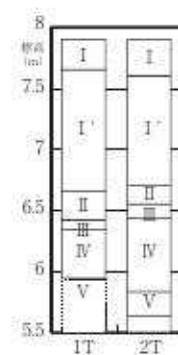
調査の結果、遺構・遺物が発見されなかったことから、本発掘調査は不要である。



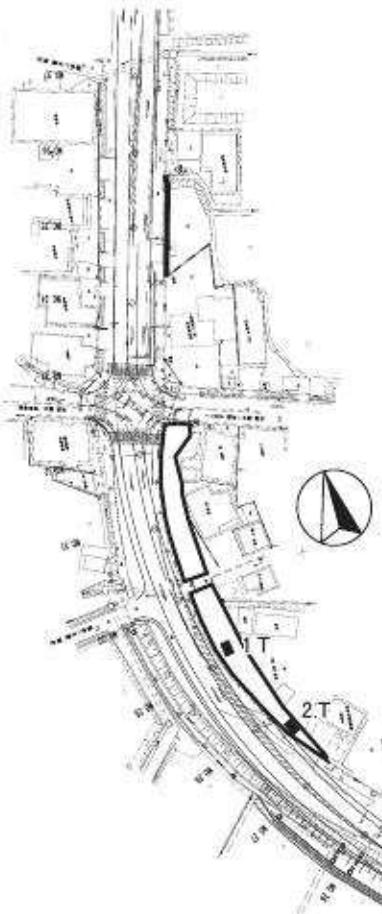
第4図 1T土層断面(南から)



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「勝木」1:50,000原図 平成16年発行)



第2図 土層柱状図 (1:60)



第3図 トレンチ位置図 (1:2,000)

2 一般国道7号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）関係
ひばら いたやごし
村上市檜原・板屋越地区試掘調査

(1) 立地

高根川右岸の丘陵地帯に位置する。丘陵を形成する花崗岩が風化崩壊し、真砂土となり、丘陵地帯に厚く堆積する。標高は約60.6~65.5mで、現況は杉林である。

(2) 調査の概要

25か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。25Tは沢地形であったことから、直交する位置にトレンチを設定した。

(3) 層序

I層 黒褐色腐植土である。

II層 暗赤褐色土でI層とIII層の漸移層である。

III層 褐色土である。

III'層 にぶい黄褐色土で粗い真砂土である。

黒褐色土層 倒木痕でI層が天地返しとなったものである。

IV層 にぶい褐色土である。2mm~5cm大の真砂土である。

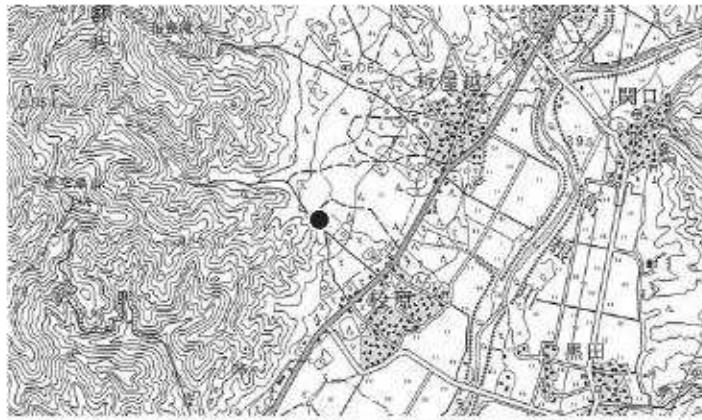
V層 にぶい褐色の細粒の真砂土である。3~10cm大の花崗岩を含む。

(4) 遺構・遺物

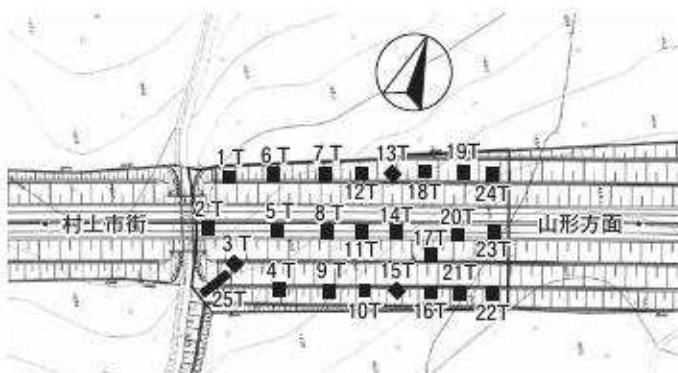
なし。

(5) 調査結果と取扱い

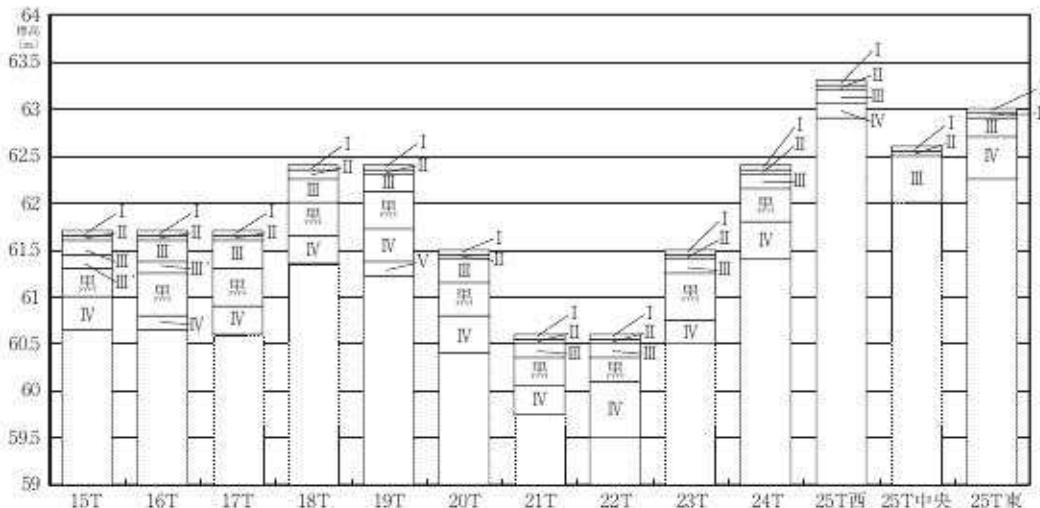
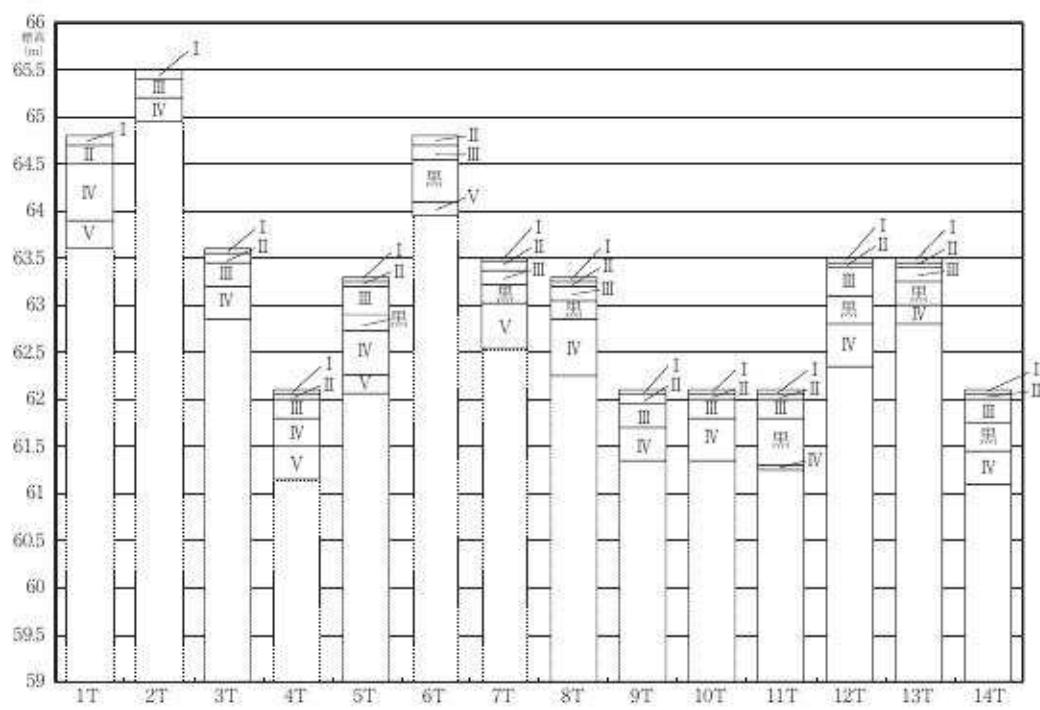
調査の結果、遺構・遺物が発見されなかつたので、今回の対象範囲については、本発掘調査は不要である。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「塙野町」1:50,000原図 平成16年発行)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1:80)



第4図 10T土層断面（西から）



第5図 25T全景（南西から）

3 一般国道7号新潟港東港地区事故対策関係

大分こうや 聖籠町大夫興野地区試掘調査

(1) 立 地

新潟砂丘列新砂丘第Ⅱ列末端で、標高は約2.5~3.1mである。現況は水田である。

(2) 調査の概要

8月6日に1T～4Tを設定して試掘調査を行ったが、湧水が多く十分に土層の観察ができなかった。このため、周囲の水田の水が無くなった9月18日に再度5T～9Tを設定して調査を行った。

(3) 層序(基本層序の数字は平成25年度と合わせている。)

1層 表土及び黄褐色盛土である。

Ⅱ層 砂質盛土である。

Ⅲ層 暗褐色土である。旧水田耕作土で盛土である。

III' 層 褐色砂層である。

IV層 ガツボ層である。

V' 層 暗褐色砂層である。

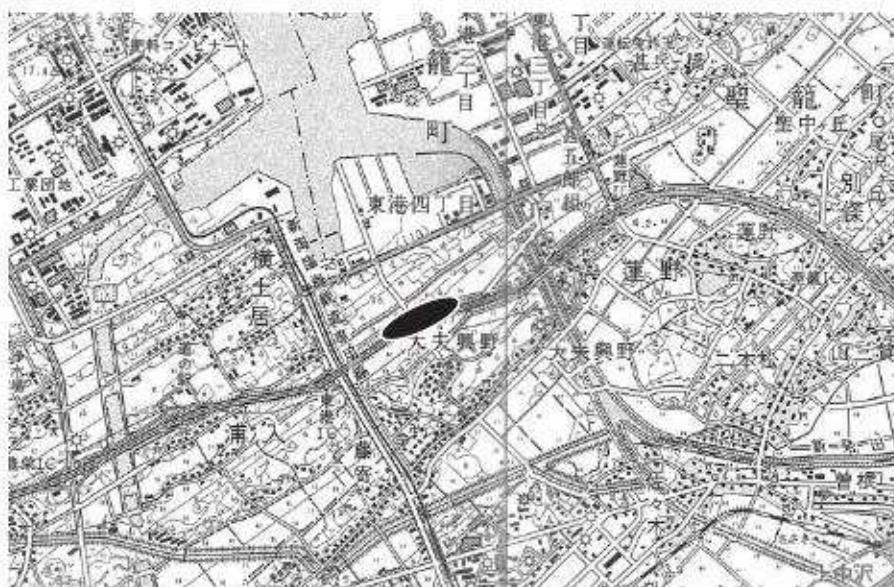
V層 黄灰色砂で、砂丘の基盤層である。下層ほど水分を多く含み湧水が多い。

(4) 遺構・遺物

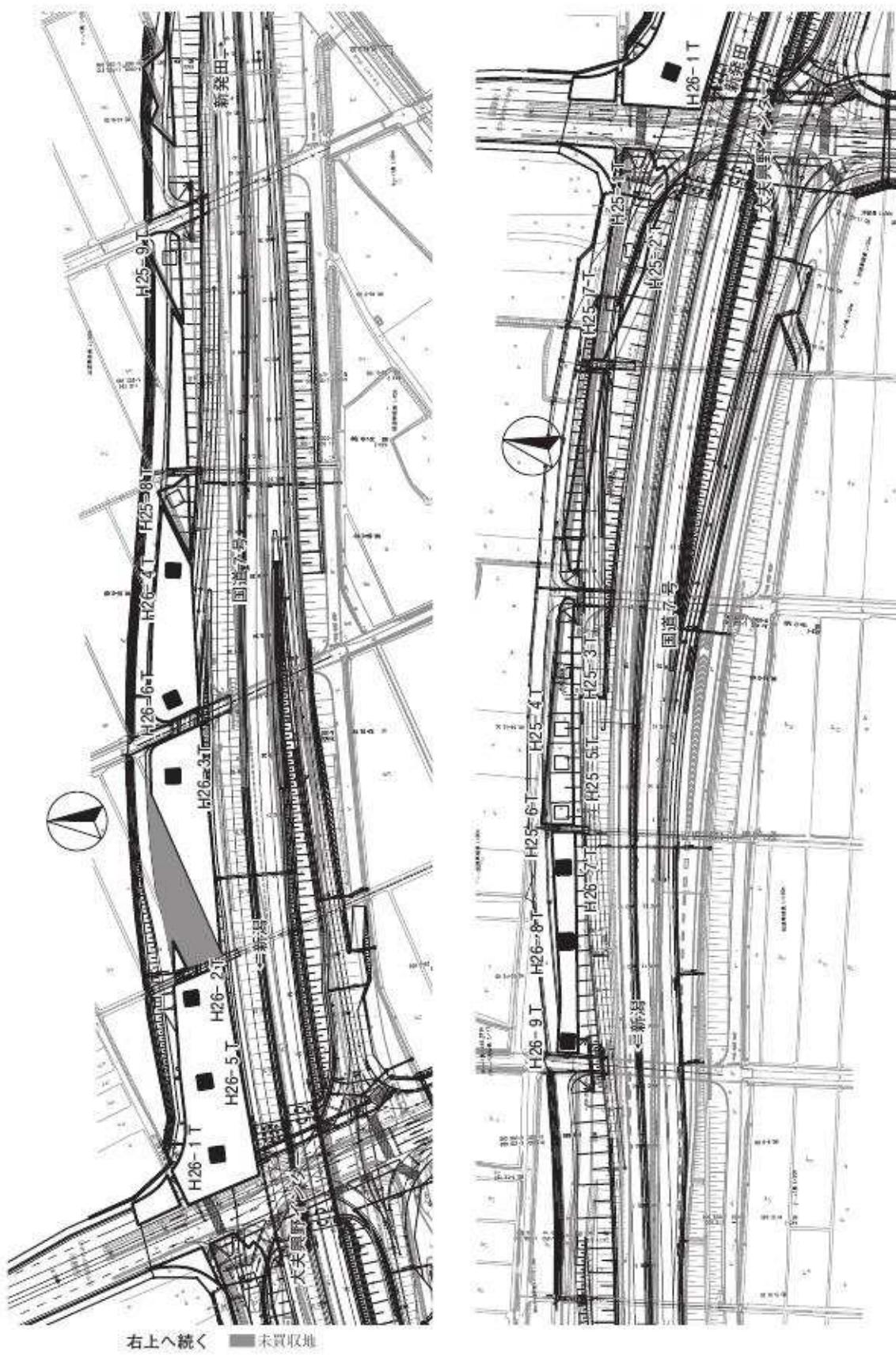
遺構は検出しなかった。試掘トレンチから遺物は出土しなかったが、7月4日に行った現地打合せ時に、中世の珠洲焼擂鉢片を1点表面採取した。盛土からの採取のため、本地点に伴うものではなく、混入品と判断した。

(5) 調査結果と取扱い

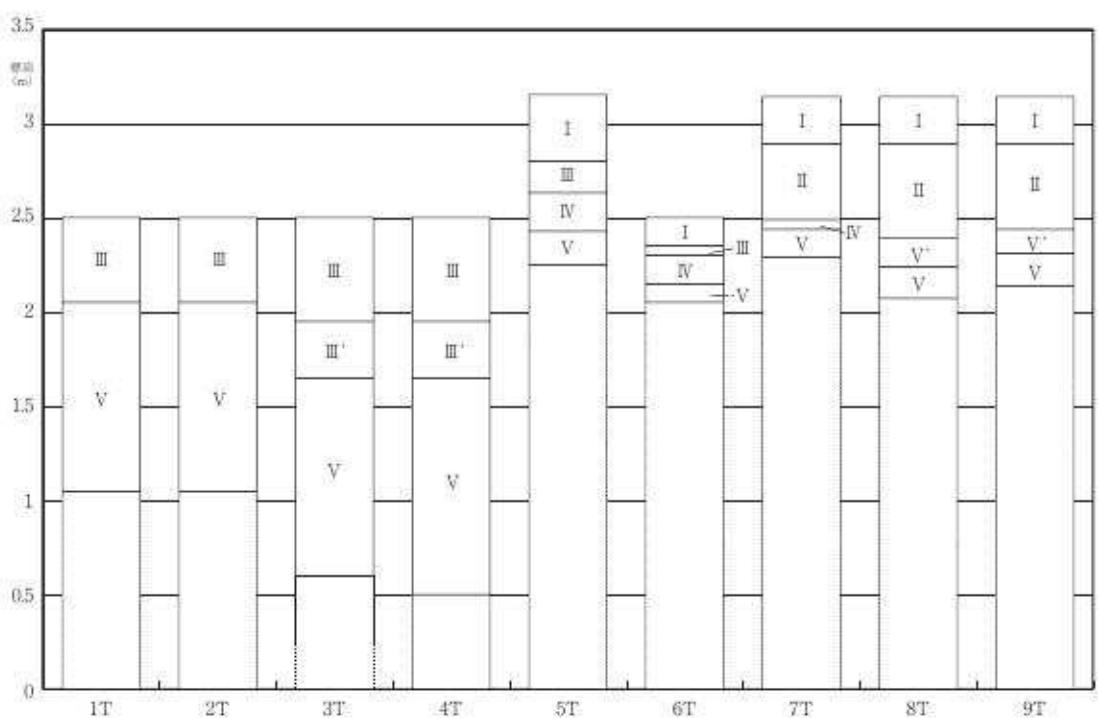
調査の結果、今回の調査範囲内（3,500m²）では、遺構・遺物は発見されなかったことから、本発掘調査は不要である。今回対象外の未買収地400m²についても遺構・遺物が存在する可能性が低いことから、本発掘調査は不要である。



第1図 位置図 (1 : 50,000)
(国土地理院発行 平成17年「新潟」平成15年「新発田」1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 4T土層断面（南から）



第5図 5T土層断面（東から）



第6図 8T土層断面（南から）



第7図 出土遺物

4 一般国道7号栗ノ木道路・紫竹山道路関係

新潟市中央区西馬越～燈～紫竹山三丁目間試掘調査

(1) 立地

新潟砂丘列新砂丘第Ⅱ列3・4（地点2）及び第Ⅲ列1付近（地点1）に位置する。標高は約0～1.7mである。現況は荒地であるが、以前は宅地及び商業地であった。

(2) 調査の概要

平成23～25年度からの継続調査である。用地買収が終了した地点から順次調査を行った。本年度は12月までに9か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

(3) 層序

基本層序は地点ごとに大きく異なるため、平成23～25年度調査の層序区分とは合わせていない。

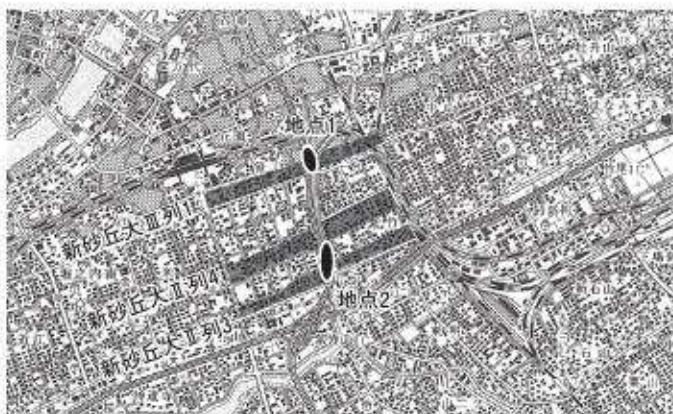
- 0層 盛土の山砂などである。細分していない。
- 1層 青灰～灰色～褐色シルト。旧表土である。
- II層 シルト・砂混合層である。
- III層 灰色シルトである。
- IV層 黒褐色腐植物層。いわゆる「ガツボ層」である。
- V層 褐色砂層。砂丘砂（砂丘表土）層である。

(4) 遺構・遺物

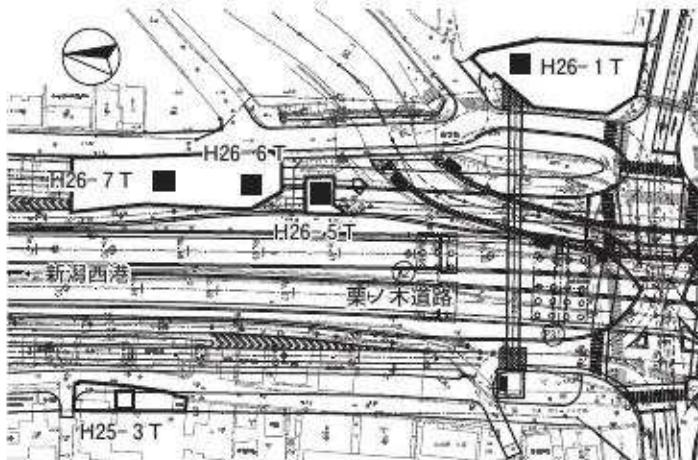
なし。

(5) 調査結果と取扱い

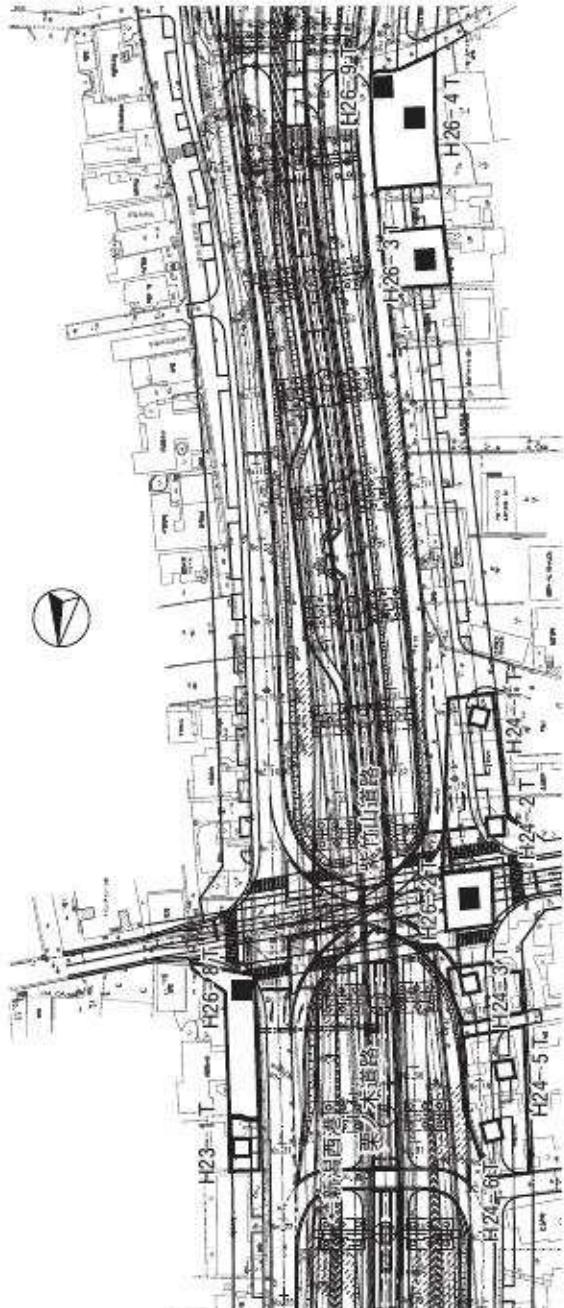
調査の結果、遺構・遺物は発見されなかったので、今回の対象範囲については、本発掘調査は不要である。



第1図 位置図 (1 : 50,000)
(国土地理院「新潟」1:50,000原図 平成17年発行)



第2-1図 地点1 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第3図 1T土層断面（南から）



第4図 2T土層断面（西から）



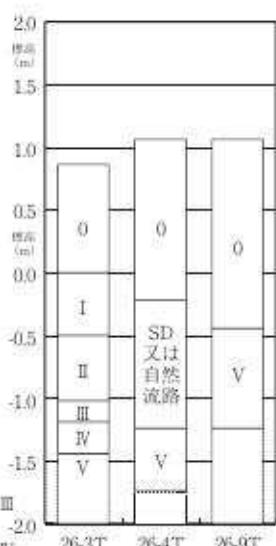
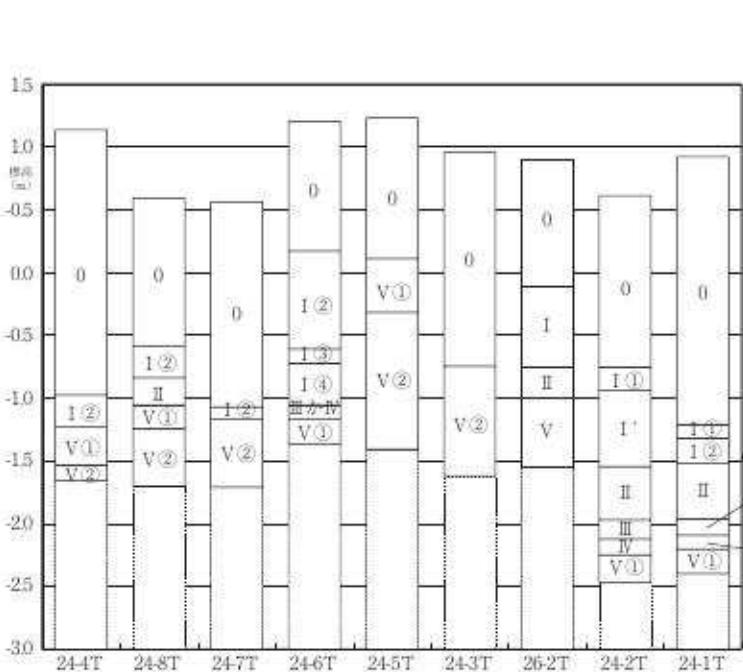
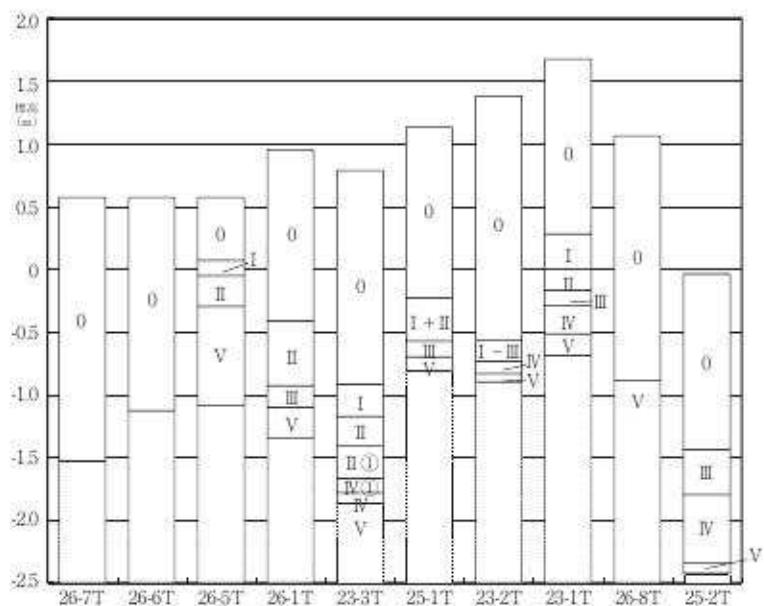
第5図 4T土層断面（西から）



第6図 6T土層断面（北から）



第7図 8T土層断面（東から）



第8図 土層柱状図 (1:60)

5 一般国道49号阿賀野バイパス関係

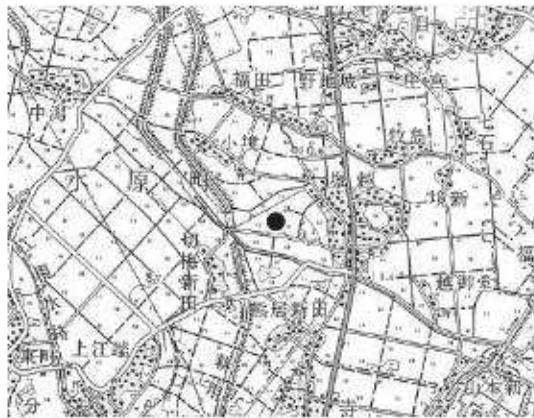
ほりこし むかいの 阿賀野市堀越地区・向野遺跡確認調査

(1) 立地

阿賀野川右岸の沖積地で、同川の旧流路に面する自然堤防上に位置する。標高は約11.5mである。現況は荒地であるが、以前は水田・畑地であった。

(2) 調査の概要

3か所のトレンチを設定して確認調査を行った。26-1T・2Tは新しく設定したものだが、ほかに平成22年度の試掘調査〔財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2011〕で設定した22-14Tを再掘した。遺物包含層は開田時に削平され残存しない。すべてのトレンチで遺構を検出した。遺物は26-1TのSD1・SD2から平安時代の須恵器・土師器が出土した。このことから、平成22年度の試掘調査では出土遺物がないた



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「新津」1:50,000原図 平成9年発行)

め、詳細な時期が不明であったが、平安時代の遺跡であることが判明した。ただし、遺構・遺物とも希薄なことから、集落の縁辺の可能性があるため、26-2Tを設定し、SD2の延長を検出して、図面・写真等の記録を取った。

(3) 層序

I層 褐色シルトである。水田・畑地の耕作土である。

I'層 水田床土である。

II層 褐色粘質シルトである。I層とIII層の漸移層である。

III層 黄褐色シルトである。遺構確認面である。

(4) 遺構

古代の遺構と考えられるSD1 (SD2より新しい)・SD2を検出した。

SD2は幅160~260cm、長さ37.5m、深さ52~58cmである。集落の区画溝、あるいは水路の可能性がある。

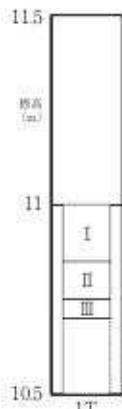
そのほかのピットや狭小な溝は掘削したが、遺物は出土しなかった。覆土に締まりが無いことから、近代以降の可能性が高いと考えられる。

(5) 遺物

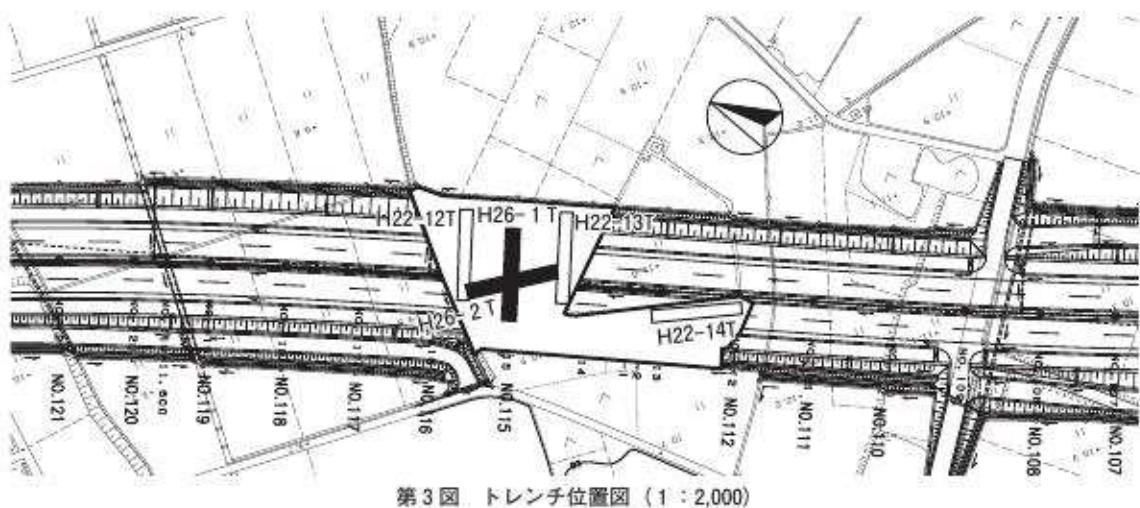
SD1から平安時代の須恵器1点、SD2から平安時代の土師器10点が出土した。

(6) 調査結果と取扱い

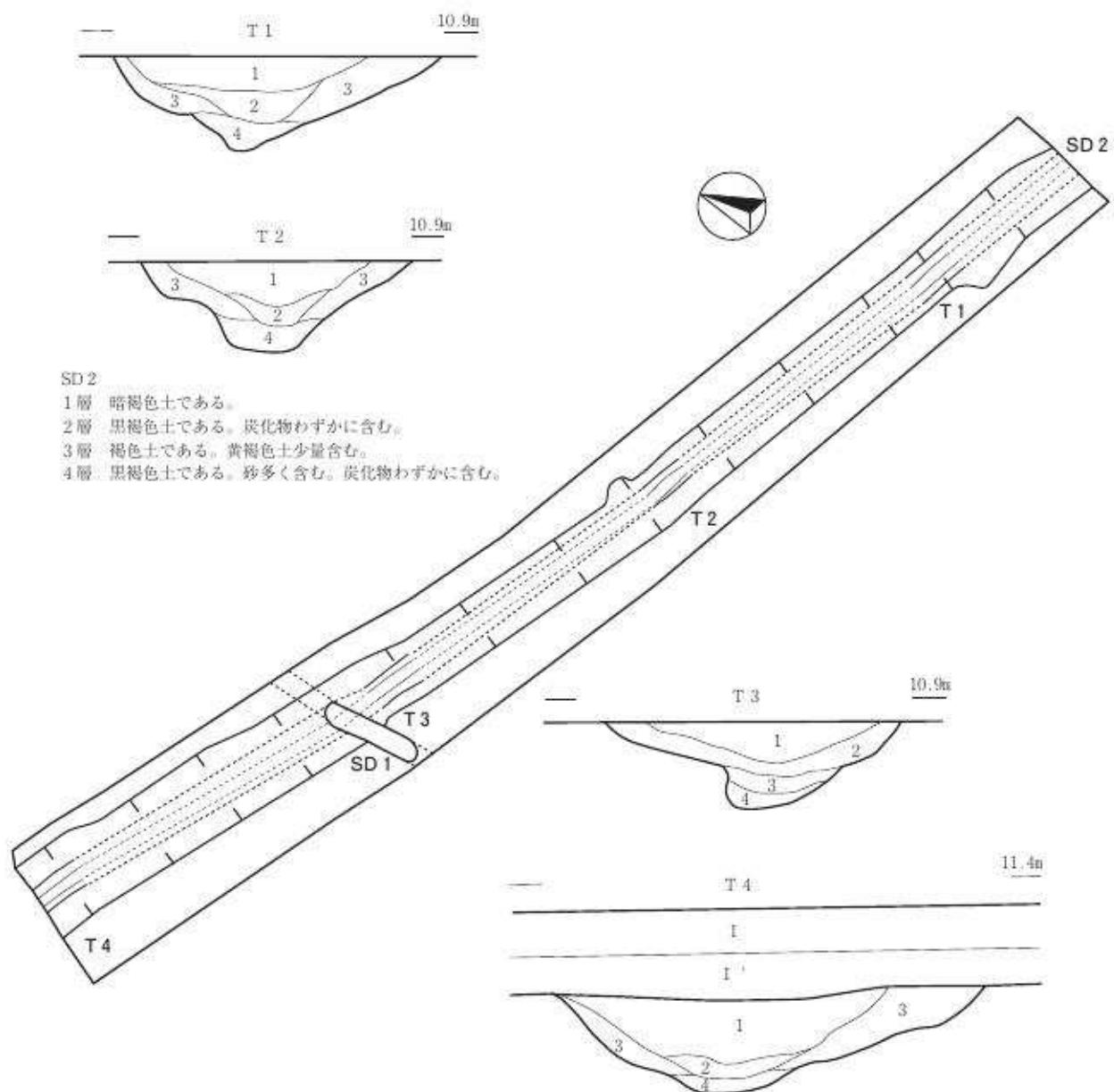
調査の結果、遺構・遺物は発見したが、本発掘調査対象となる中世以前の遺構・遺物ともに希薄であった。遺存状態のよいSD2については、調査範囲内ですべて検出し、必要な記録を取った。したがって、本発掘調査は不要である。



第2図 土層柱状図 (1:40)



第3図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第4図 トレンチ2 SD 2 平面図 (1 : 200)・断面図 (1 : 60)



第5図 現況（東から）



第6図 26-1 T全景（西から）



第7図 26-1 T① 検出状況（南から）



第8図 26-1 T② SD 1・2 検出状況（南から）



第9図 26-1 T③ 検出状況（南から）



第10図 26-1 T④ 検出状況（南から）



第11図 26-1 T 土層断面（東から）



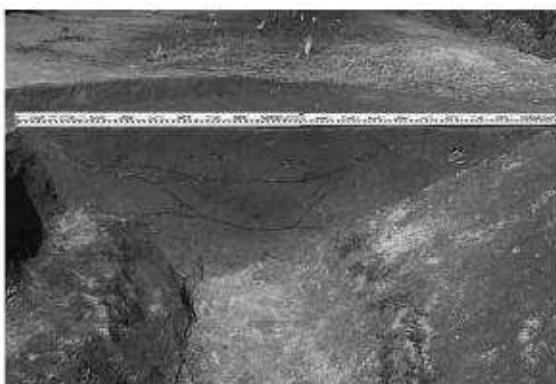
第12図 22-14T 検出状況（南から）



第13図 26-2 T SD 2 検出状況（南から）



第14図 26-2 T SD 1(右)・SD 2(左) 遺物出土状況(北から)



第15図 26-2 T SD 2 - T 1 土層断面（北から）



第16図 26-2 T SD 2 - T 2 土層断面（北から）



第17図 SD 2-2 T SD 2 - T 3 土層断面（南から）



第18図 26-2 T SD 2 - T 4 土層断面（南から）



第19図 SD 1 出土遺物



第20図 SD 2 出土遺物

6 一般国道116号吉田下中野地区事故対策関係

よし だ にしおお た よし だ しもなか の 燕市吉田西太田・吉田下中野地区試掘調査

(1) 立地

西川右岸に発達した自然堤防上の後背地で、標高は6.4~7.0mである。現況は水田・畑地・荒地である。

(2) 調査の概要

5か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。各トレンチとも、約0.5~1.0mの盛土の下に青灰色から灰褐色系の粘土層を確認した。

(3) 土層説明

0層 盛土である。

1層 青灰色粘土層である。

I ①層 青灰色粘土層である。やや砂質が強い。炭化物を少量含む。

I ②層 青灰色粘土層である。I層よりやや暗い。

II層 灰褐色粘土層であ

る。

II ①層 灰褐色粘土層であ
る。やや青みが強
い。

II ②層 灰褐色粘土層であ
る。やや褐色が強
い。

(4) 遺構・遺物

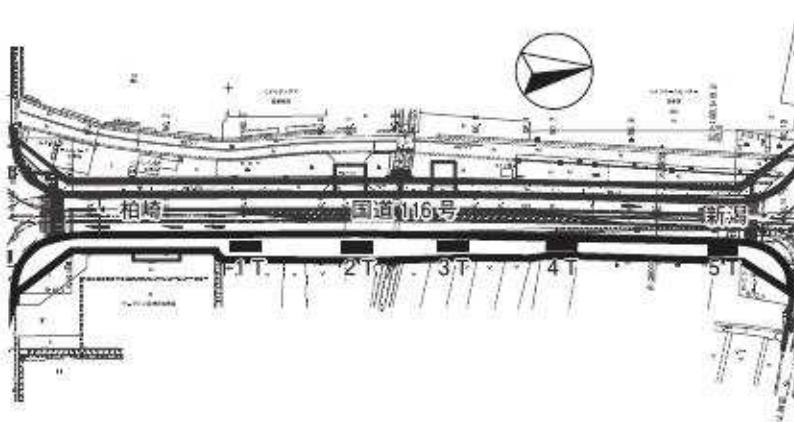
なし。

(5) 調査結果と取扱い

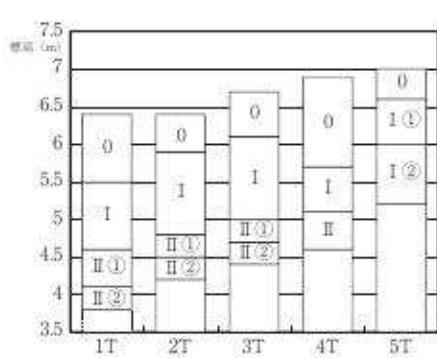
調査の結果、遺構・遺物を発見しなかったことから、本発掘調査は不要である。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院 平成15年「弥彦」平成8年「三条」1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1:100)



第4図 3T土層断面 (北から)

7 一般国道8号柏崎バイパス関係

いはらめ おかえ 柏崎市茨目地区・丘江遺跡試掘・確認調査

(1) 立地

柏崎平野東部の鶴石川の左岸に広がる沖積地に位置し、現在の標高は約6.3~7.4mである。現況は工場跡地の荒地、及び水田である。

(2) 調査の概要

平成25年度の試掘では、H25-11Tの様相から中央低地部（H25-9~16T間）は、水田として利用された可能性が考えられた。ただし、遺物の分布がやや希薄であり、遺構も不明瞭であることから、平成26年の試掘調査を経て、改めて本発掘調査の必要面積を検討することになっていた。

9か所のトレンチを設定して試掘調査を行い、5か所で遺構を検出し、2か所で遺物が出土した。遺構には小穴・土坑・溝・井戸の可能性がある落ち込みがある。遺物はすべて中世以降の所産で、青磁・木製品がある。遺構・遺物は調査対象地の調査区北側ではほぼすべて、調査区南側では東側を中心に分布する傾向にある。

(3) 層序（下線部が26年度検出層位）

- 0層 現代の水田（宅地造成直前の水田を含む）耕作土、表土、盛土を一括した。遺物を含まない。
- I層 灰色シルト層（7.5Y4/1）である。酸化して褐色を帯びるか所もある。II層との境が明瞭で、は場整備による水田と思われる。近現代から一部中世の遺物を含む。わずかな色調の違いで分層できる場合はa・bとした。相対的に下層から古い時期の遺物が出土する傾向がある。
- II層 中世の遺物包含層及び遺構確認面である。
- II①層 灰色シルト層（5Y4/1）である。12・19・20Tにのみ残存する。中世の遺物包含層である。
- II②層 灰色シルト層（10Y6/1）である。酸化して褐色を帯びるか所もある。中世の遺構確認面である。
- 平成24年度試掘調査（宝田～茨目地区）のIV層に類似する。
- III層 II層以下を一括する。地形の違いから、1~10T（III①~⑥）、12~20T（III⑦~⑪）、13~19T（III⑫~⑯）で堆積状況がやや異なる。
- III①層 灰色シルト層（10Y4/1）である。鉄分を少量含む。
- III②層 灰色シルト層（10Y4/1）である。灰色粘土粒子を少量含む。やや水分が乏しい。
- III③層 灰色シルト層（10Y4/1）である。灰色粘土粒子を少量含む。
- III④層 灰色シルト層（10Y4/1）である。灰色粘土粒子を少量含む。鉄分を多く含む。
- III⑤層 灰色砂層（10Y5/1）である。
- III⑥層 オリーブ黒色シルト層（10Y3/1）である。褐色砂質土との互層をなす。
- III⑦層 灰色シルト層（7.5Y4/1）である。やや明るい色調のシルト粒子を斑に含む。炭化物を少量含む。
- III⑧層 オリーブ黒色シルト層（7.5Y3/1）である。含有物は同上でやや砂質である。
- III⑨層 オリーブ黒色シルト層（10Y3/1）である。白色の軽石と生木を多く含む。やや砂質である。
- III⑩層 灰色シルト層（10Y4/1）である。炭化物・生木を多く含む。
- III⑪層 オリーブ黒色シルト層（7.5Y3/2）である。黒色腐植物（いわゆるガツボ）を多く含む。
- III⑫層 緑灰色シルト層（7.5G-Y6/1）である。含有物少ない。

- III⑬層 浅黄色シルト層 (7.5Y7/3) である。植物茎に由来する鉄分を多量に含む。やや水分が乏しい。
- III⑭層 灰白色シルト層 (10Y7/1) である。上層より粘性高く、鉄分がやや少ない。
- III⑮層 灰色シルト層 (10Y6/1) である。粒子やや粗く、水分多く含む。含有物は少ない。
- III⑯層 灰白色シルト層 (10Y7/1) である。粘性高い。含有物は少ない。
- III⑰層 オリーブ黒色シルト層 (10Y3/1) である。ガツボを多量に含む。しまりはある。

(4) 遺構

遺構はすべてII層で検出した。1m前後ある盛り砂に水分を多く含み、崩落の危険があることから、II層の詳細な分層ができなかったところもある。

調査区北側では、5T・7Tを中心に小穴・土坑を検出した。8Tでは井戸の可能性がある落ちこみを検出した。

調査区南側の低地では、1Tで土坑、4Tで水路あるいは流路の可能性がある幅3m以上、深さ0.7mの溝状遺構を検出した。旧表土のI層からの掘り込みではあるが、中世から継続して使用された水路の可能性を想定した。2T・3Tで遺構・遺物を発見できなかったことから、対象外の範囲に9Tを設定し、調査を行ったが、遺構・遺物は発見できなかった。明確な水田跡を示す攪拌土や踏み抜き痕は検出していない。

(5) 遺物

4Tの溝状遺構に沿って杭と楔形木製品が出土した。5Tから青磁碗底部片が1点出土した。

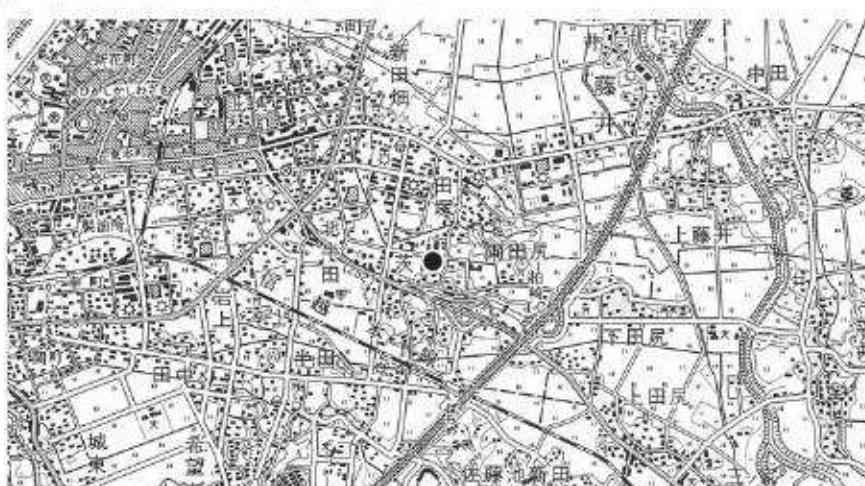
(6) 調査結果と取扱い

以上の結果から、本調査区の様相は、平成25年度試掘調査で拡大した丘江遺跡の一部と捉えることが妥当である。

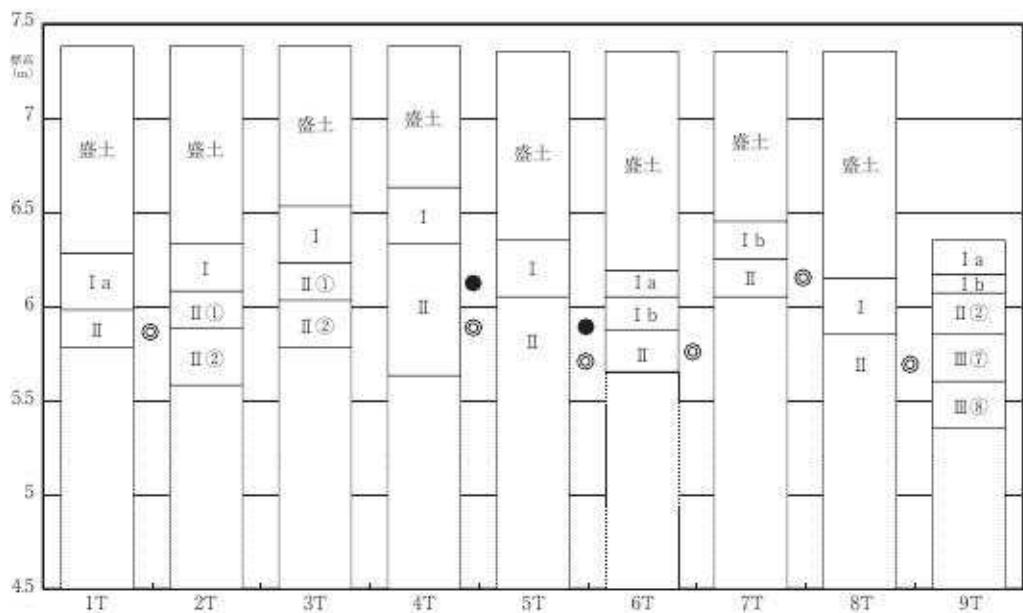
調査対象範囲6,000m²のすべてを本発掘調査必要範囲とする。遺構検出面は1面であることから、平成25年度の本発掘調査必要面積19,100m²と合わせて25,100m²となる。

平成26年度の試掘調査で2T・3Tの結果から9Tを設定して調査したが、遺物も無く水田の確証も得られなかった。しかし、H25-20Tで遺物が9点と比較的多く出土していたことから、中央低地部を本発掘調査対象範囲からは除外しないこととする。

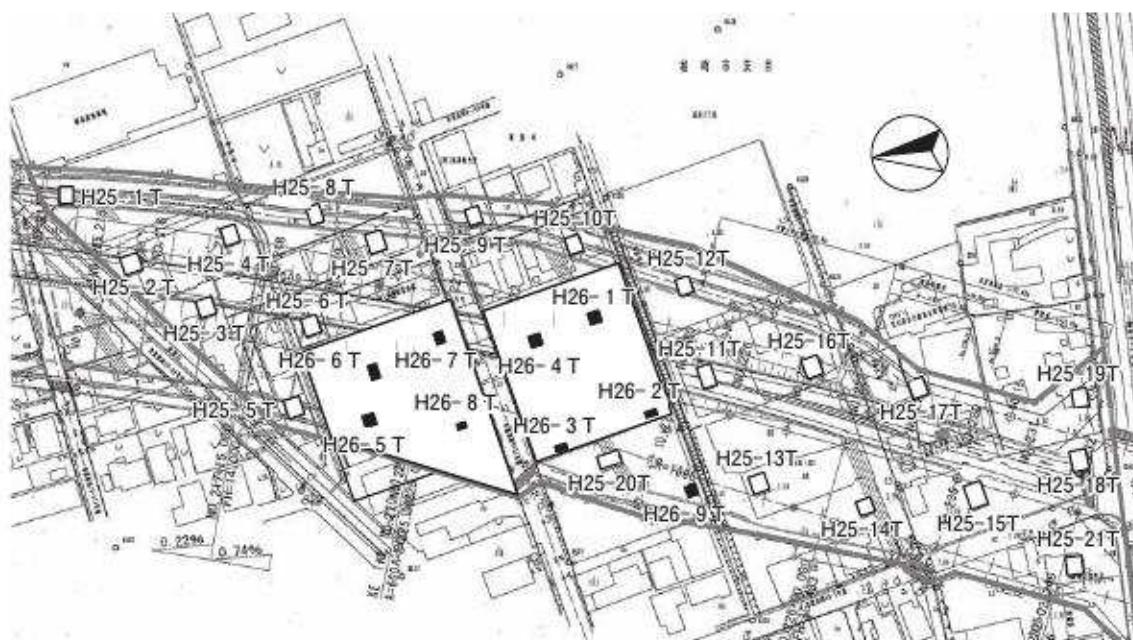
平成24年度の調査結果と合わせると丘江遺跡の本発掘調査必要面積は、上層（中世）54,467m²、下層（弥生～古墳）19,970m²で合わせて74,437m²となる。



第1図 位置図 (1 : 50,000)
(国土地理院「柏崎」1:50,000原図 平成7年発行)



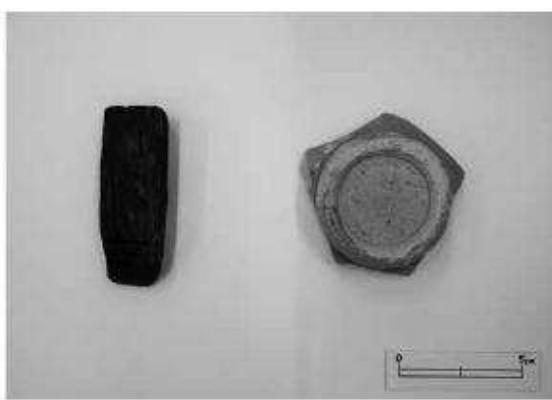
第2図 土層柱状図 (1:40) ●=遺物 ○=造構発見



第3図 トレンチ位置図 (1:3,000)



第4図 1T遺構検出状況 (東から)



第5図 出土遺物

8 一般国道17号和南津改良関係

わなづ 長岡市和南津地区試掘調査

(1) 立地

魚野川左岸の低位段丘上に位置する。標高は約93.0～93.3mである。現況は水田であるが、昭和50年代以前は畑地であった。

(2) 調査の概要

トレーナーを10か所設定して、試掘調査を行った。昭和50年代の畑地から水田への改変時に削平及び盛土が行われている。

(3) 層序

I層 黒褐色土である。水田耕作土である。

I'層 黒褐色土である。水田床土で下部に礫を含む。

I''層 黒褐色土である。旧畑地の耕作土である。

II層 明黄褐色土である。頁岩あるいは泥岩の5～15cm大の礫を多く含む。

II'層 黄褐色土である。

III層 にぶい黄橙色土である。

IV層 にぶい黄橙色土である。III層より暗い。

V層 にぶい褐橙色土である。細砂多く含む。IV層より明るい。

VI層 灰黄褐色粗砂（川砂）である。

(4) 遺構・遺物

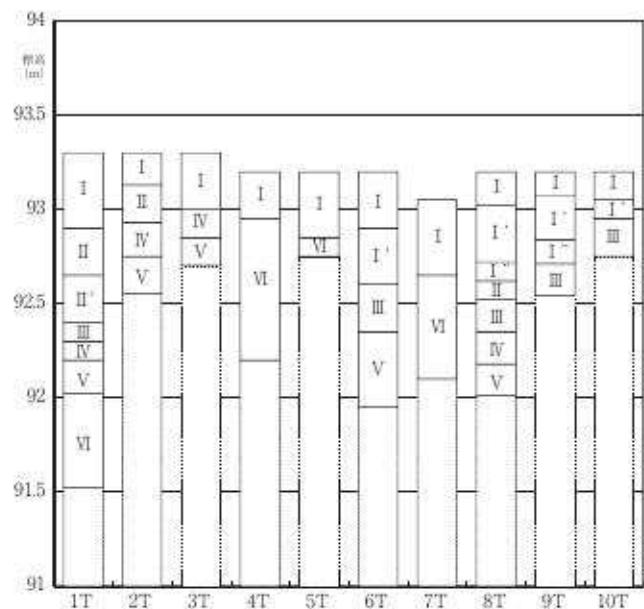
なし。

(5) 調査結果と取扱い

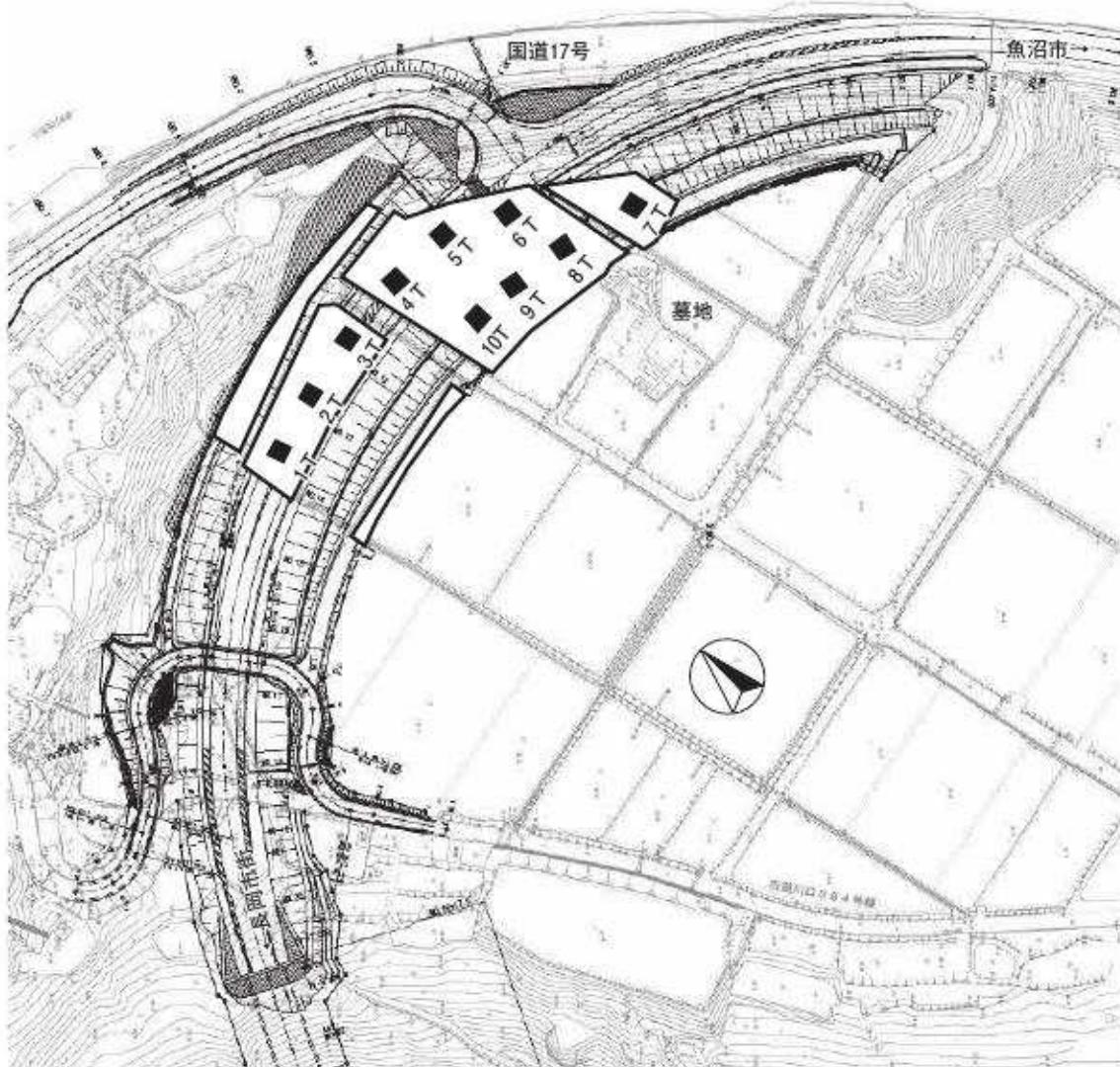
調査の結果、遺構・遺物は発見されなかつたので、今回の対象範囲については、本発掘調査は不要である。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「小千谷」1:50,000原図 平成6年発行)



第2図 土層柱状図 (1:40)



第3図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第4図 26-1T 土層断面 (南から)



第5図 26-10T 土層断面 (南から)

9 一般国道17号浦佐バイパス関係

おおうら 魚沼市大浦地区試掘調査

(1) 立 地

三用川右岸の氾濫原にあたり、標高は約107mである。市道沿いの宅地跡・水田跡である。

(2) 調査の概要

7か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

(3) 層 序 (下線部が26年度検出土層)

I層 黒褐色シルト (10YR3/2) である。粘性やや強く、しまり強い。現水田及び畑耕作土である。

II層 褐灰色シルト (10YR4/1) である。粘性やや強く、しまり強い。現水田床土である。

III層 黒褐色シルト (2.5YR3/2) である。粘性やや強く、しまり極めて強い。径15cm大の砂礫を多く含む。ビニール片や鉄パイプなどの現代物が混入する。

IV層 旧水田耕作土 (IV③層) 及びそれを覆う洪水堆積物 (IV①・②層) で、3層に分層した。

IV①層 黄灰色シルト (2.5Y4/1) である。粘性やや強く、しまり強い。砂や腐植を多く含む。23-14T以降では、灰色・黄灰色砂がラミナ状に堆積する場合もあり、色調も暗灰黄色から灰色となる。下位からアルミ缶や農業用ビニールが出土した。

IV②層 灰色シルト (5Y4/1) である。粘性、しまり弱い。腐植物を混入。ほかのトレンチでは、この層位が粗砂・砂利層であることが多い。

IV③層 灰色シルト (5Y4/1) である。粘性、しまり極めて強い。水田耕作土である。23-18T以降は、黒色化し腐植が混じるが、下位には灰色シルトが堆積する場合がある。

V層 IV層下に堆積する砂礫やシルトなどの洪水堆積物で、含有物の特徴から2層に分層した。

V①層 灰色砂 (10YR4/1) である。粘性、しまり弱い。小さな砂礫を少量混合し、灰色シルトがラミナ状に入る。

V②層 黄灰色砂 (5Y5/2) である。粘性、しまり弱い。径5~40cmの礫を多量に含む。湧水著しい。

VI層 基本は粘性の強いシルトであるが、腐植物や礫層が入り込んでいる。7層に分層した。

VI①層 灰色シルト (7.5Y5/1) である。粘性極めて強く、しまり弱い。主に23-14T以降に堆積する。腐植物を少量含む粘質土である。

VI②層 灰色シルト (10YR5/1) である。粘性極めて強く、しまり強い。主に23-14T以降に堆積する。腐植物を多く含む粘質土である。

VI③層 灰色シルト (7.5Y5/1) である。粘性極めて強く、しまり強い。黒色化した腐植粒子と小径の砂礫を少量含む。

VI④層 灰オリーブ色砂礫 (7.5Y5/2) である。径3cm大までの砂礫層である。

VI⑤層 灰色シルト (10Y4/1) である。粘性強く、しまり極めて強い。砂粒とシルトの混合である。

VI⑥層 黄灰色砂礫である。粘性、しまりなし。23-23T以降に散見される。径5~40cm大の砂礫を含む。湧水著しい。

VI⑦層 緑灰色シルトである。粘性強く、しまり弱い。23-24T以降に散見される。砂質分が多い。

(4) 遺構・遺物

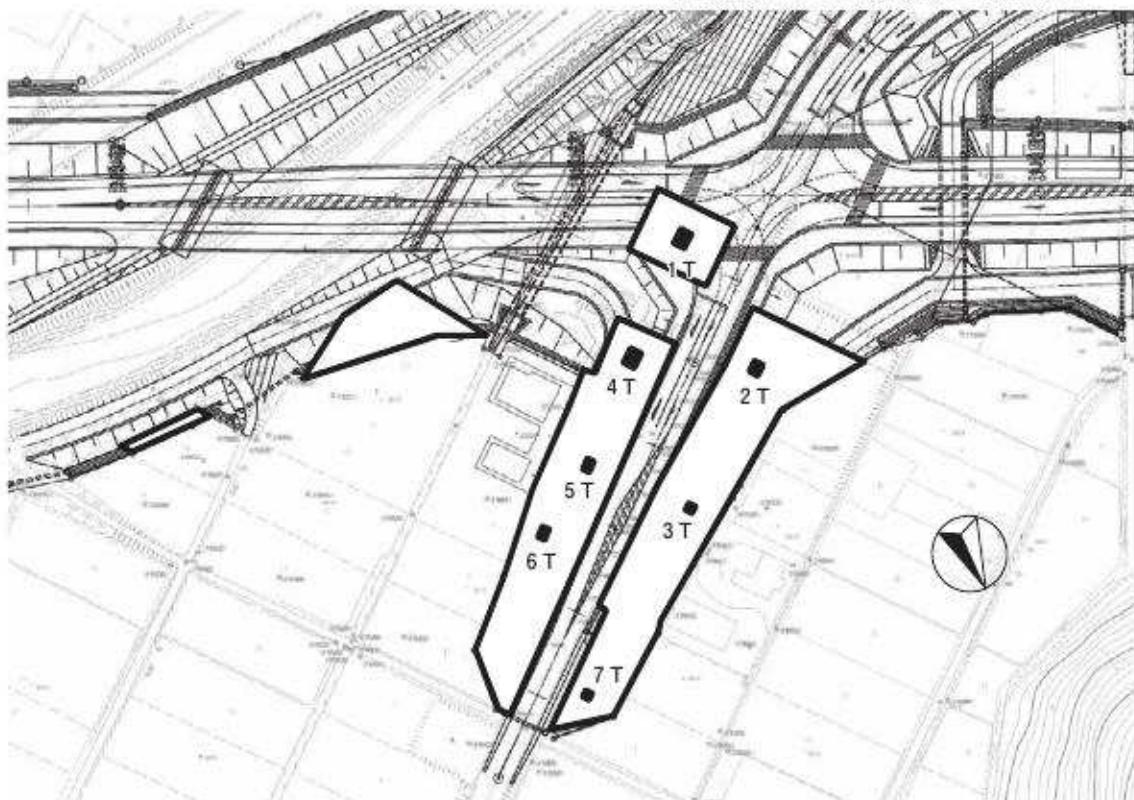
なし。

(5) 調査結果と取扱い

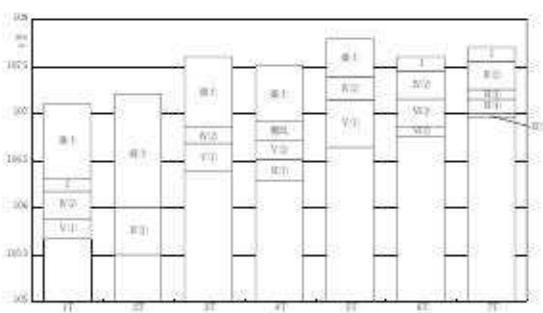
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は発見されなかつたことから、対象地における本発掘調査は不要である。



第1図 位置図(1:50,000)
(国土地理院「小千谷」1:50,000原図 平成6年発行)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図(1:80)



第4図 1T土層断面（北から）

10 一般国道17号石打自転車歩行者道整備関係

しもひといち きみさわ 南魚沼市下一日市・君沢地区試掘調査

(1) 立地

魚野川左岸の低位段丘面に位地し、標高は約211m～204mである。南西から北東に向かって低く傾斜する。現況は水田跡・畑跡である。

(2) 調査の概要

16か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。2Tを除く15か所のトレンチは、現代の水田耕作土直下に疊層が堆積しており、以前は魚野川の氾濫原であったと考えられる。

(3) 層序

I層 灰褐色粘質土である。現代の水田耕作による土層を一括する。

II層 灰褐色粘質土である。

III層 灰色粘質土である。

IV層 暗灰色粘質土である。人頭大の礫をまばらに含む。

V層 砂利層・疊層を一括する。

(4) 遺構・遺物

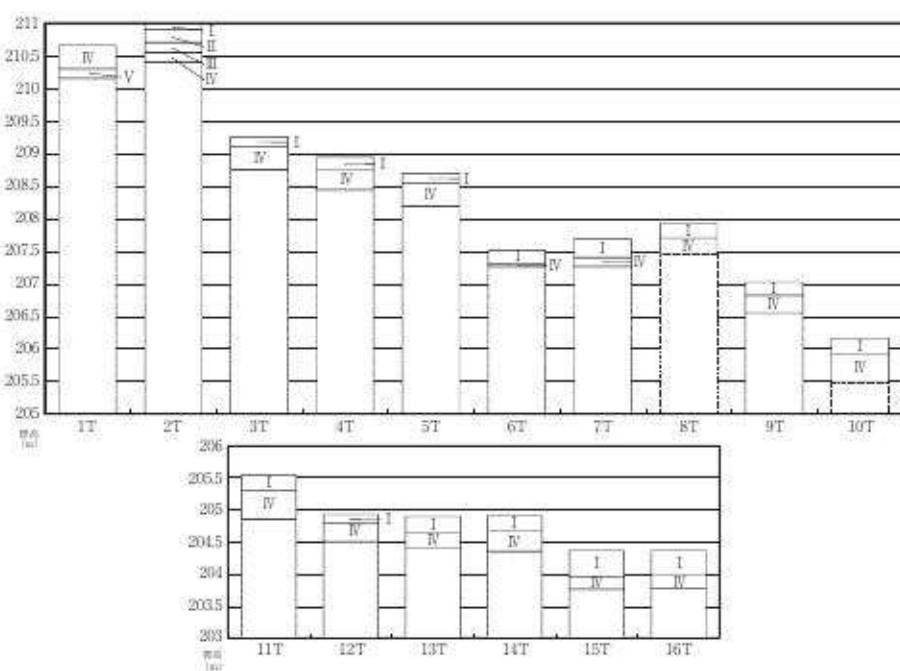
なし。

(5) 調査結果と取扱い

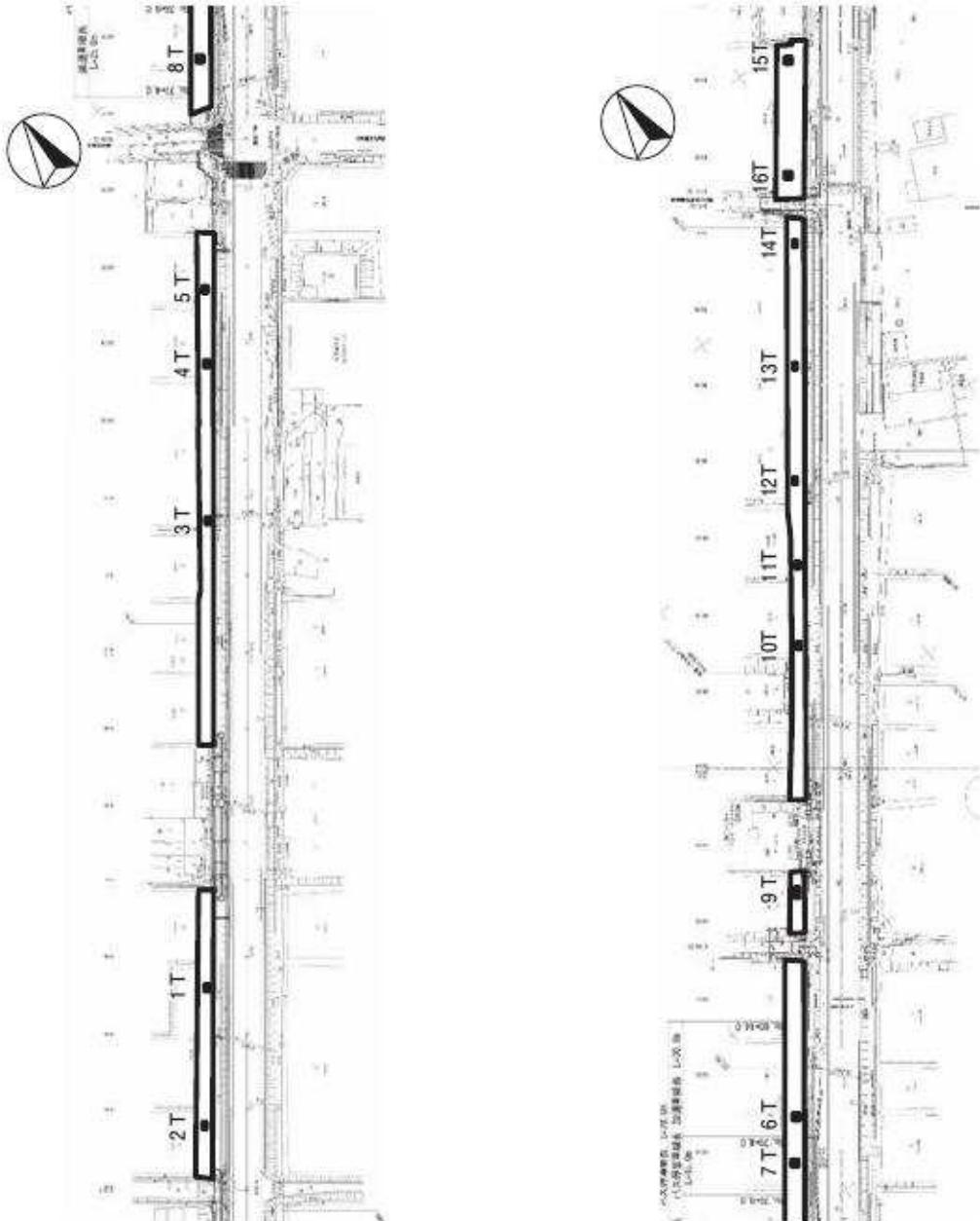
調査の結果、遺構・遺物は発見されず、対象地（1～3T間、5～8T間、6～9T間、9～10T間の未買取地も含む）における本発掘調査は不要である。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院 平成10年「十日町」平成2年「越後湯沢」1:50,000原図)



第2図 土層柱状図 (1:100)



第3図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第4図 5T土層断面 (東から)



第5図 16T土層断面 (西から)

11 一般国道18号妙高大橋架替関係

妙高市坂口新田遺跡・小二俣古戦場試掘・確認調査

(1) 立地

妙高・赤倉山系の丘陵地で、関川支流の大田切川の右岸に小二俣古戦場（安土・桃山時代）、左岸に坂口新田遺跡（平安時代）がある。周辺は今から約5,000年前に起こった大田切川火碎流が厚く堆積している。標高は坂口新田遺跡が448.6～458.4mで、上越市側に向かって低く傾斜する。小二俣古戦場の標高は466.1～471.2mで、長野県側に向かって低く傾斜する。坂口新田遺跡の現況は畠地・荒地で、小二俣古戦場の現況は山林跡である。

(2) 調査の概要

坂口新田遺跡

22か所（1T～22T）のトレンチを設定して試掘調査を行った。遺構は検出しなかった。3Tで検出した溝状の落ち込みは現代の畑の耕作跡であった。遺物は散発的に出土した。

小二俣古戦場

38か所（23T～60T）のトレンチを設定して試掘調査を行った。すべてのトレンチから遺構・遺物は発見されなかった。

(3) 層序（両遺跡共通である。）

0層 黒褐色土である。耕作土である。

0'層 暗褐色土である。耕作土である。

1層 黒色腐植土である。畠地の耕作土及び山林の表土である。

1'層 黒色土である。平安時代の土師器が出土する。

1''層 黒褐色土である。

II層 明黄褐色土である。5～15cm大の礫を少量含む。

III層 にぶい黄橙色土である。5～30cm大の礫多く含む。

(4) 遺構

坂口新田遺跡 なし。

小二俣古戦場 なし。

(5) 遺物

坂口新田遺跡 3Tで平安時代の土師器1点、坂口新田遺跡の周辺に当たる6Tで平安時代の北信系と見られる土師器15点、17Tで古墳時代の北信系と見られる土師器28点が出土した。

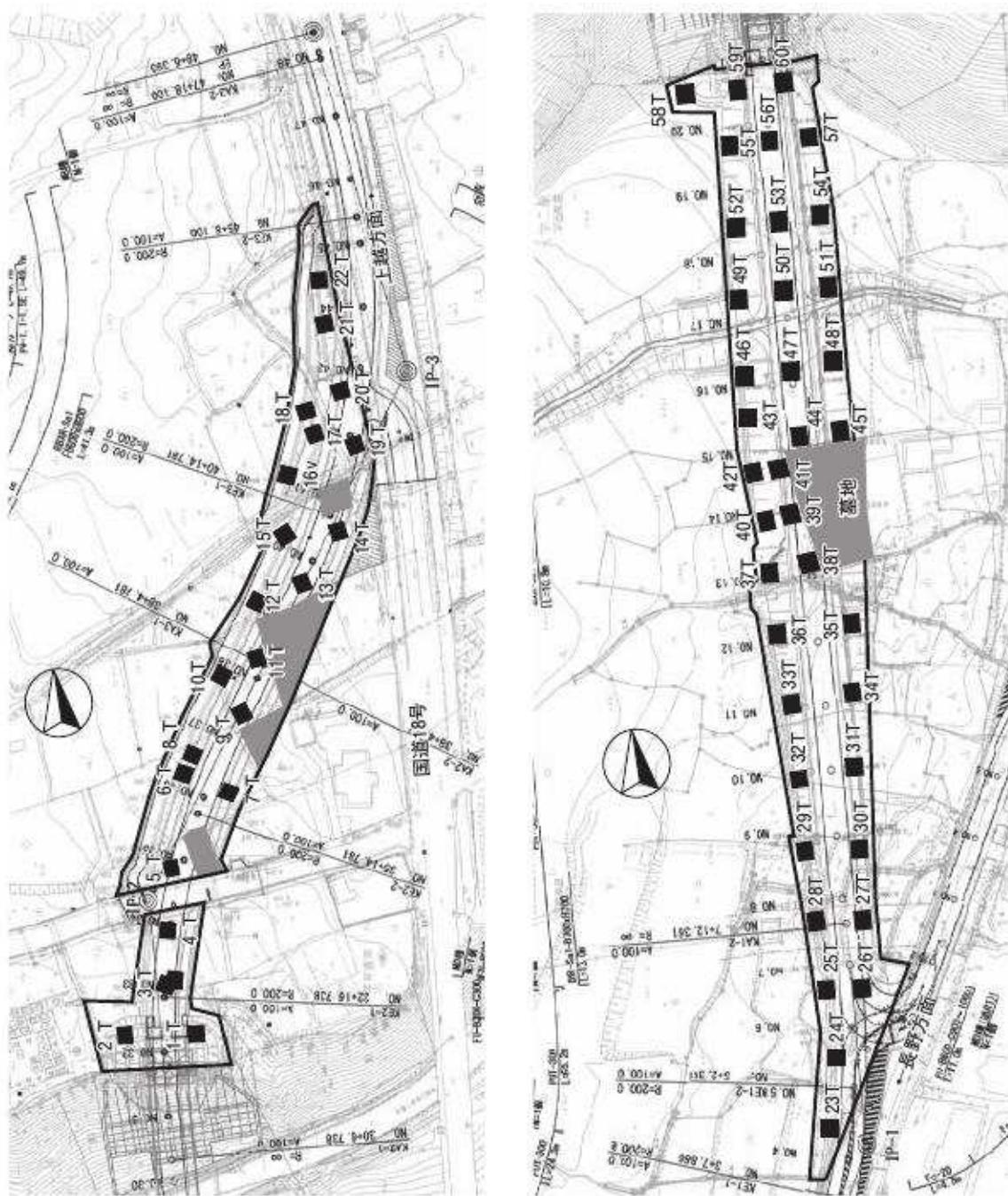
小二俣古戦場 なし。



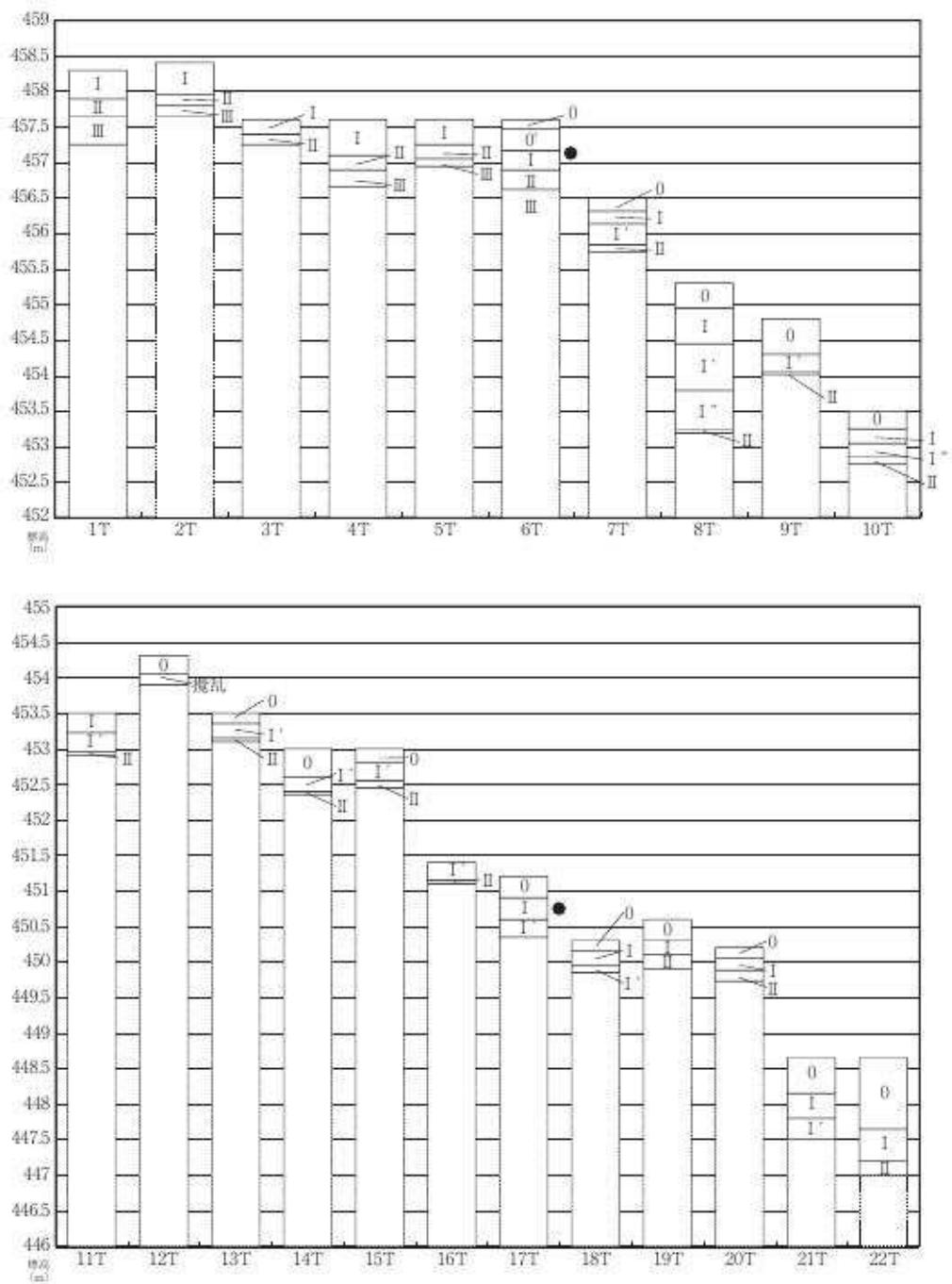
第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「妙高山」1:50,000原図 平成11年発行)

(6) 調査結果と取扱い

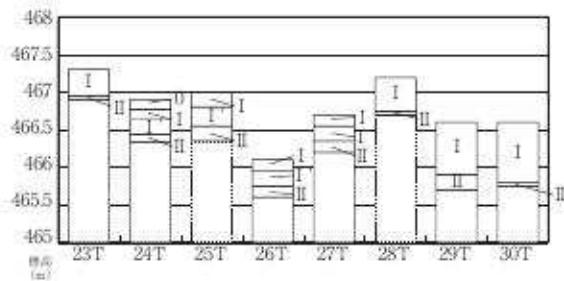
調査の結果、坂口新田遺跡範囲内の3Tと周辺の6T・17Tで遺物が出土したが、いずれも細片である。また、遺構も検出されなかったことから、今回の両遺跡を合わせた対象範囲18,620m²について、本発掘調査は不要である。対象範囲内に未買収地・引き渡し未了地があるが、これについても遺構・遺物がある可能性が低いことから本発掘調査は不要である。



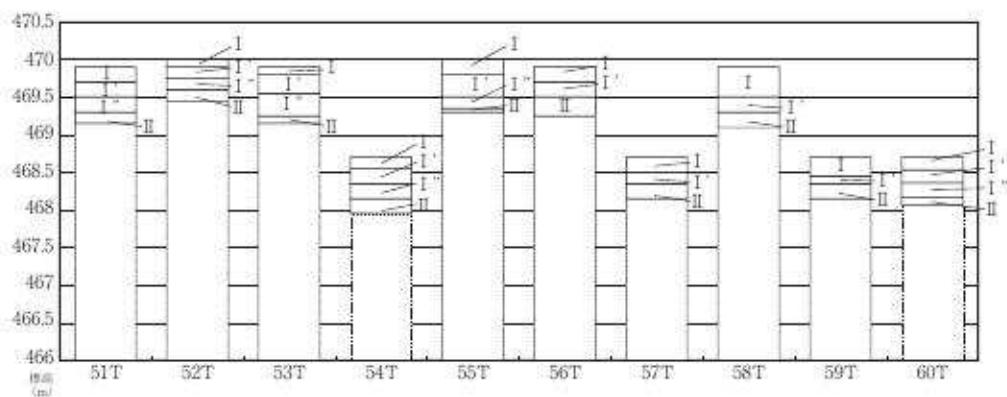
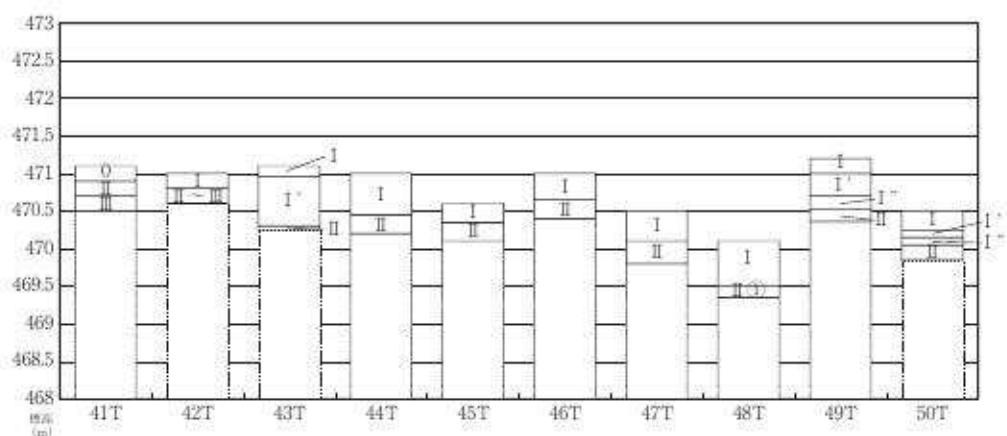
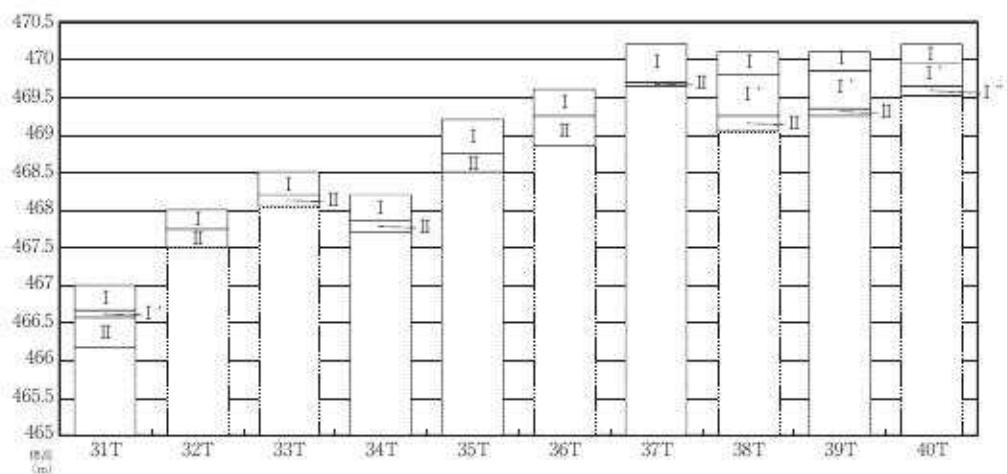
第2図 トレンチ位置図 左：坂口新田遺跡・右：小二俣古戦場 (1 : 2,000) ■未買収地



第3-1図 坂口新田遺跡土層柱状図 (1:100) ●=遺物



第3-2図 小二俣古戦場土層柱状図 (1:100)



第3-3図 小二俣古戦場土層柱状図 (1:100)



第4図 3T土層断面（北から）



第5図 6T土層断面（南から）



第6図 8T土層断面（南から）



第7図 7T土層断面（南から）



第8図 36T土層断面（南から）



第9図 3T出土遺物



第10図 6T出土遺物



第11図 17T出土遺物

12 北陸自動車道長岡北スマートインターチェンジ関係 おおあらとうえの 長岡市大荒戸・上野地区試掘調査

(1) 立地

信濃川左岸の沖積地で、標高は17.7~17.9m前後である。現況は水田である。

(2) 調査の概要

58か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。遺構・遺物は発見しなかった。

(3) 層序

I層 橙色シルトである。水田耕作土である。

II層 橙色シルトである。水田床土である。

III層 褐灰色シルトである。炭化物を含む。
は場整備前の水田床土である。

IV層 褐灰色シルトである。

V層 灰色シルトである。炭化物を含む。

VI層 灰色シルトである。

VII層 オリーブ灰色シルトである。

VIII層 暗オリーブ灰色シルトである。

IX層 暗オリーブ灰色砂である。

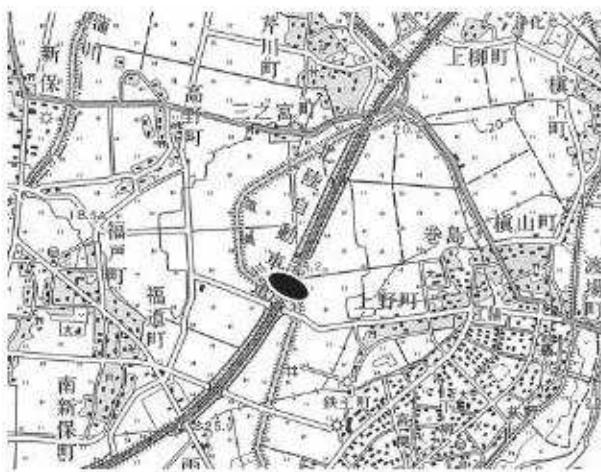
以下、砂とシルトの互層が続く。

(4) 遺構・遺物

なし。

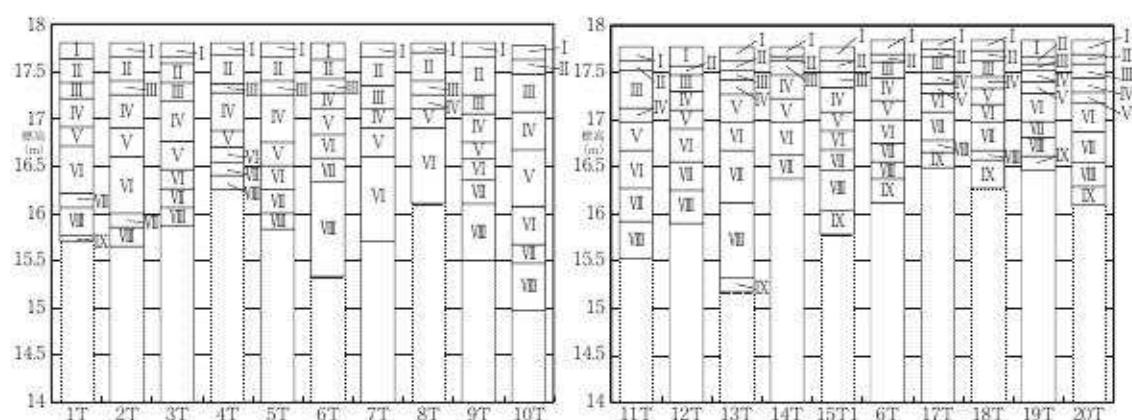
(5) 調査結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物を発見しなかったことから本発掘調査は不要である。

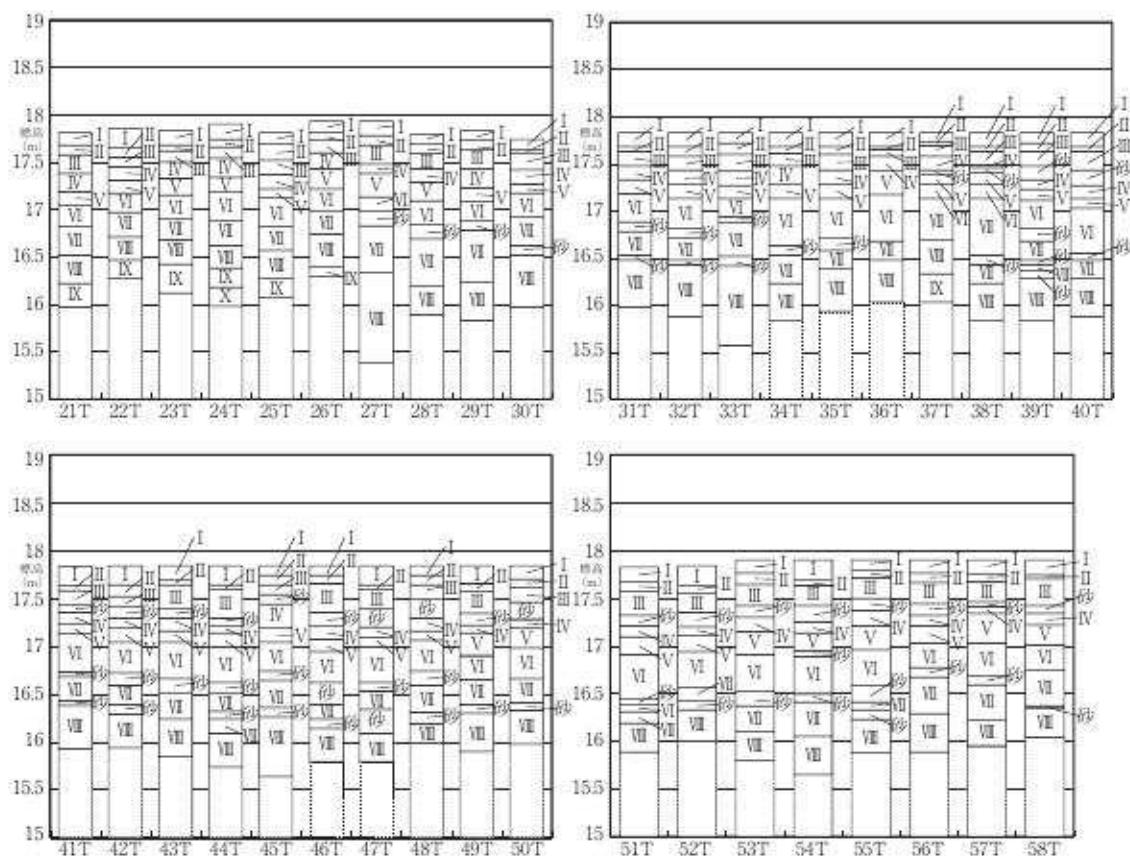


第1図 位置図 (1:50,000)

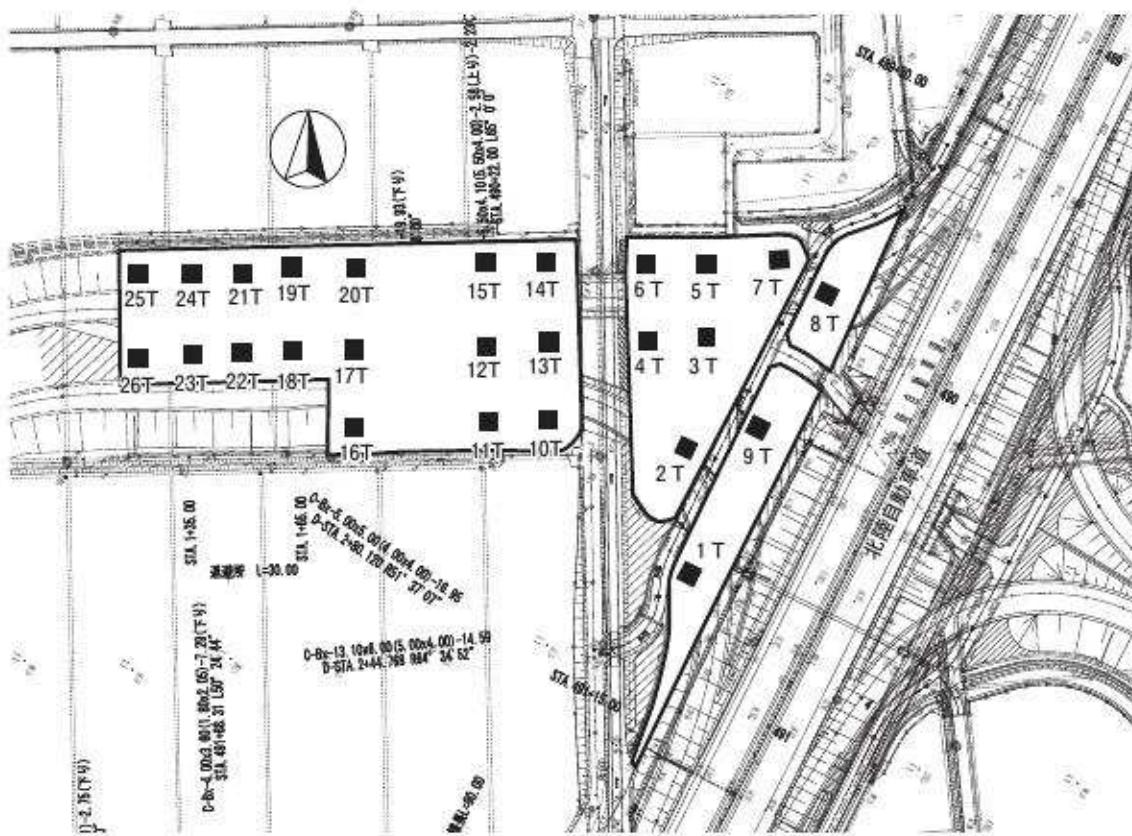
(国土地理院「長岡」1:50,000原図 平成8年発行)



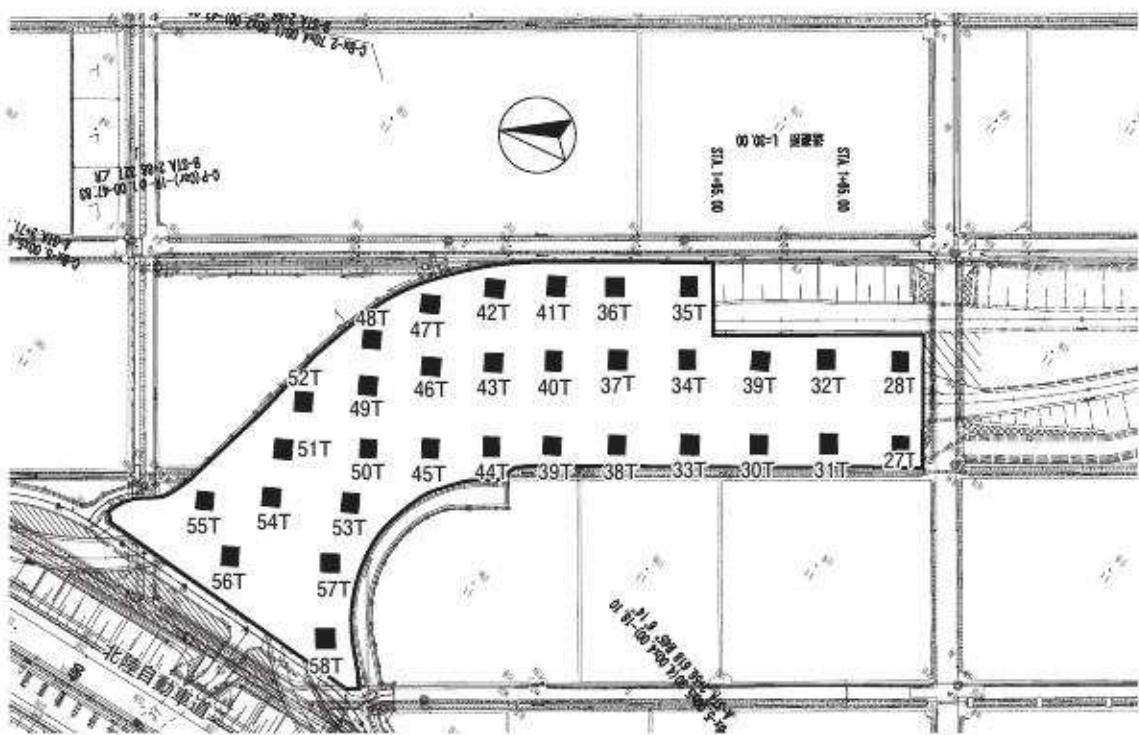
第2-1図 土層柱状図 (1:80)



第2-2図 土層柱状図 (1:80)



第3-1図 下り(大荒戸地区) トレーンチ位置図 (1:2,000)



第3-2図 上り(上野地区)トレンチ位置図(1:2,000)



第4図 6T土層断面(南から)



第5図 11T土層断面(南から)



第6図 27T土層断面(東から)



第7図 54T土層断面(西から)

第3章 立会調査の結果

1 一般国道8号柏崎バイパス関係

けんの ちごづくり 柏崎市剣野地区・千古作遺跡立会調査

(1) 立地

柏崎平野の鶴川左岸に形成された自然堤防上及び剣野丘陵裾までの約70m間の後背湿地に位置し、標高は約2.1～3.1mである。

(2) 調査の概要

平成23年度本発掘調査時[新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団2012]に電柱の移設が間に合わず、調査できなかった23.0mについて立会調査を行った。平成23年度本発掘調査時に検出していた溝SD202の延長と、それに続く大きな落ちこみ(SX)を検出したが、新旧関係は確認できなかった。SD202から土師器片6点が出土した。

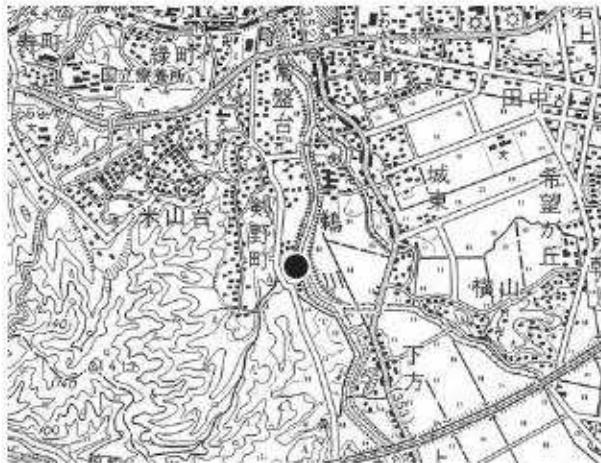
(3) 遺構・遺物

SD202：遺構検出面から確認できたのは、幅0.8m、長さ3.0m、深さ0.2mである。覆土から土師器片(古墳から古代か)が6点出土した。

SX：確認できた範囲は幅1.4m、長さ4.9m、深さ7～15cmでさらに南側に広がる。遺物は出土していない。

(4) 調査結果と取扱い

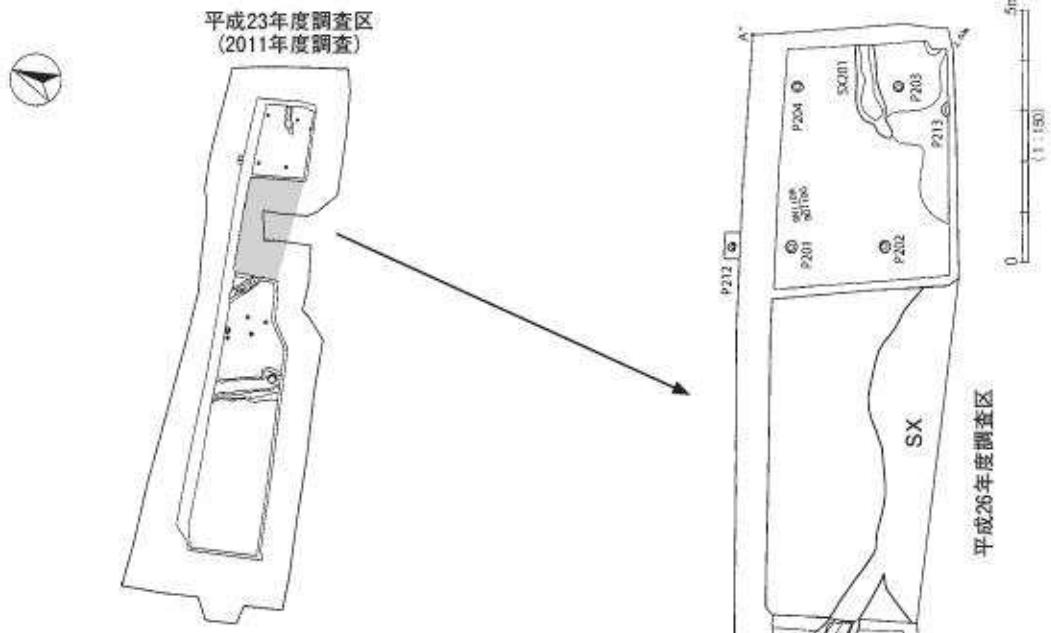
今回の立会調査で、一般国道8号柏崎バイパス事業に関わる千古作遺跡の発掘調査はすべて終了した。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「柏崎」1:50,000原図 平成7年発行)



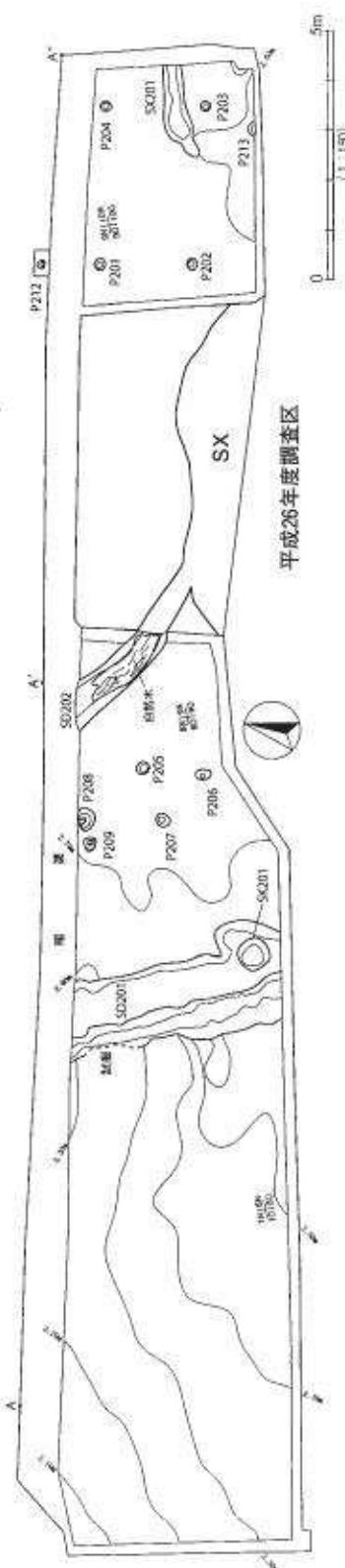
第2図 SD202出土遺物



第3図 平成23年度調査範囲図（1：500）



第5図 遺構検出状況（北から）



第4図 平成26年度立会調査平面図（1：150）

引用・参考文献

- 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2011 「新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成22年度」
財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2013 「新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成24年度」
新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2012
新潟県埋蔵文化財調査報告書第234集『千古作遺跡Ⅱ』
新潟県教育委員会 2014 新潟県埋蔵文化財調査報告書第255集『平成25年度県内遺跡試掘・確認調査』
妙高村 1994 「妙高村史」

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうろくねんどけんないいせきしつ・かくにんちょうさ							
書名	平成26年度県内遺跡試掘・確認調査							
副書名	県内遺跡発掘調査報告書							
巻次	4							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第260集							
編著者名	佐藤友子 加藤元康							
編集機関	新潟県教育委員会							
所在地	新潟県新潟市中央区新光町4番地1							
発行年月日	2015(平成27)年3月23日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
向野遺跡	阿賀野市堀越	152234	404	37° 48' 25"	139° 13' 20"	2014/08/09 15-16	235	国道建設
丘江遺跡	柏崎市茨目	152056	1010	37° 21' 54"	138° 34' 58"	2014/07/28-29	113	国道建設
千古作遺跡	柏崎市剣野町	152056	721	37° 20' 55"	138° 33' 05"	2014/08/25	23	国道建設
坂口新田遺跡	妙高市坂口新田	152170	422	36° 54' 27"	138° 12' 56"	2014/10/27~31	329	橋架替
小二俣古戦場	妙高市二俣	152170	333	36° 54' 17"	138° 12' 51"	2014/11/04~07·10·11	533	橋架替
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
向野遺跡	集落跡	古代	溝・ピット	須恵器・土師器				
丘江遺跡	集落跡	中世	溝	青磁・木製品(楔)				
千古作遺跡	集落跡	中世	溝	土師器				
坂口新田遺跡	散布地	平安	なし	土師器				
小二俣古戦場	古戦場	中世	なし	なし				
要約	道路事業に伴う試掘・確認調査を12か所で実施した。主な成果としては、阿賀野市・向野遺跡が平安時代の遺跡であることが判明したほか、柏崎市丘江遺跡では遺跡の広がりを確認した。							

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 260 集 県内遺跡発掘調査報告書IV 平成26年度県内遺跡試掘・確認調査 平成27(2015)年3月20日印刷 編集・発行 新潟県教育委員会 平成27(2015)年3月23日発行 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 電話 025(285)5511 印刷・製本 株式会社ハイングラフ 〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号 電話 025(233)0321
--

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第260集『平成26年度県内遺跡試掘・確認調査』 正誤表

2019年9月追加

頁	位置	誤	正
抄録	市町村コード	152234	15223
抄録	市町村コード	152056	15205
抄録	市町村コード	152170	15217
抄録	千古作遺跡 北緯	37度20分55秒	37度20分54秒
抄録	千古作遺跡 東経	138度33分05秒	138度33分03秒